

公共健康医学専攻(SPH)シラバス

2017年度

東京大学大学院医学系研究科

目次

事 項		ページ
1. 授業科目の履修について		1
	1. 修了要件	1
	2. 履修手続き	1
2. 授業科目一覧		2
3. 時間割		3
4. 履修モデル		4～7
	「公衆衛生行政・管理」	4
	「保健アナリスト・コーディネーター」	5
	「臨床疫学・アウトカム評価」	6
	「医療情報・臨床工学」	7
5. シラバス		8～49
6. 公共健康医学専攻成績評価規則		50
7. 公共政策大学院との合併科目について		51～52
8. 国際保健学専攻との合併科目について		53～55

日 程	
入進学者ガイダンス	4月 3日 (月)
S P Hガイダンス	4月 4日 (火)
大学院入学式	4月12日 (水)
S 1ターム	4月 5日 (水) ~ 6月 2日 (金)
定期健康診断	新入生： 5月30日 (火) ~ 6月7日 (水)
	在学生： 4月18日 (火) ~ 27日 (木) 5月16日 (火) ~ 26日 (金)
S 2ターム	6月 5日 (月) ~ 7月31日 (月)
S P H研究室配属 (予定)	オリエンテーション： 6月中旬~下旬
	希望調書提出 : 7月上旬~中旬
夏季休業期間	8月 1日 (火) ~ 9月20日 (水)
A 1ターム	9月25日 (月) ~ 11月17日 (金)
A 2ターム	11月20日 (月) ~ 1月26日 (金)
Wターム	1月29日 (月) ~ 3月 7日 (水)
S P H課題研究論文	題目届提出期限： 11月28日 (火)
	論文提出期限： 12月15日 (金)
	発 表 会： 1月 5日 (金)
学位記授与式	3月23日 (金) (予定)

時 限	1 時 限	8 : 3 0 ~ 1 0 : 1 5
	2 時 限	1 0 : 2 5 ~ 1 2 : 1 0
	3 時 限	1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 4 5
	4 時 限	1 4 : 5 5 ~ 1 6 : 4 0
	5 時 限	1 6 : 5 0 ~ 1 8 : 3 5
	6 時 限	1 8 : 4 5 ~ 2 0 : 3 0

1. 授業科目の履修について

1. 修了要件

コ ー ス		1年コース	2年コース																																																
標準修業年限		1 年	2 年																																																
必要単位数		必修科目及び選択科目合わせて30単位以上																																																	
修了要件	必修	①A：1科目+B：5科目の計6科目を履修 A：必須科目 <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目番号</th> <th>科目名</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>41618113</td> <td>医学データの統計解析</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> B：下記の5つに分類されている必修科目を、各分類から1科目ずつ計5科目(各分類1科目以上、計5科目以上履修も可) <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>科目番号</th> <th>科目名</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td>41718111</td> <td>疫学研究と実践</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>41718115</td> <td>医学研究のデザイン</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2</td> <td>41718211</td> <td>精神保健学 I</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>41718213</td> <td>健康教育学</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">3</td> <td>41718218</td> <td>医療倫理学 I</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>41718220</td> <td>社会と健康 I</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>41718316</td> <td>法医学・医事法学</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">4</td> <td>41718311</td> <td>健康医療政策学</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>41718312</td> <td>医療情報システム学</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">5</td> <td>41718222</td> <td>産業保健の理論と実践</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>41718322</td> <td>環境健康医学</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>		科目番号	科目名	単位	41618113	医学データの統計解析	2	分類	科目番号	科目名	単位	1	41718111	疫学研究と実践	2	41718115	医学研究のデザイン	2	2	41718211	精神保健学 I	2	41718213	健康教育学	2	3	41718218	医療倫理学 I	2	41718220	社会と健康 I	2	41718316	法医学・医事法学	2	4	41718311	健康医療政策学	2	41718312	医療情報システム学	2	5	41718222	産業保健の理論と実践	2	41718322	環境健康医学	1
	科目番号	科目名	単位																																																
41618113	医学データの統計解析	2																																																	
分類	科目番号	科目名	単位																																																
1	41718111	疫学研究と実践	2																																																
	41718115	医学研究のデザイン	2																																																
2	41718211	精神保健学 I	2																																																
	41718213	健康教育学	2																																																
3	41718218	医療倫理学 I	2																																																
	41718220	社会と健康 I	2																																																
	41718316	法医学・医事法学	2																																																
4	41718311	健康医療政策学	2																																																
	41718312	医療情報システム学	2																																																
5	41718222	産業保健の理論と実践	2																																																
	41718322	環境健康医学	1																																																
選択科目	② 課題研究 (6単位) (2年次に履修申請すること)																																																		
		①選択科目(1年コースの課題研究は選択科目扱い) ②他専攻・他研究科(特に公共政策大学院)科目(8単位まで)																																																	

注意事項：同一年度中に50単位を超えて履修科目を登録することはできません。

※ 通年科目はS1タームの単位として算入されます。(ただし、課題研究論文については1年コース所属学生の場合のみ、A1タームの履修単位として算入されます。)

2. 履修手続き

下記期間内に、学務システム(通称:UT-mate)で履修登録を行ってください。

<参 照> <https://ut-gakumu.adm.u-tokyo.ac.jp/websys/campus>

	S1	S2	A1	A2	W
履修登録期間	4/5~4/19		9/25~10/6		
履修登録追加期間	—	6/5~6/19	—	11/20~12/4	1/29~2/9

2. 授業科目一覧

※講義室・講義日程が変更となる場合があるので掲示等を必ず確認すること。

頁	科目番号	授 業 科 目	単 位	ターム	曜日	時限等	担当教員	開始日
8	41718111	疫学研究と実践	2	S1・S2	金	2	佐々木 敏 教授	4/7
9	41718112	予防保健の実践と評価	2	夏季	集中	2~4	佐々木 敏 教授	8/7
10	41718113	医学データの統計解析	2	S1	木	3・4	松山 裕 教授	4/6
11	41718114	医学統計学演習	2	S2	木	3・4	大庭 幸治 准教授	6/8
12	41718115	医学研究のデザイン	2	S2	火	3・4	松山 裕 教授	6/6
13	41718116	臨床疫学	2	S2	水	1・2	康永 秀生 教授	6/7
14	41718117	臨床疫学・経済学演習	2	A1・A2	木	3・4	康永 秀生 教授	9/28
15	41718118	保健医療経済学	2	S1	水	1・2	康永 秀生 教授	4/5
16	41718120	医療コミュニケーション学	2	S1	火	3・4	石川 ひろの 准教授	4/11
17	41718122	医療コミュニケーション学演習	2	S2	水	3・4	石川 ひろの 准教授	6/7
18	41718124	医療技術評価学演習	1	A2	木	2	康永 秀生 教授	11/30
19	41718126	臨床医学概論	1	S1	木	2	康永 秀生 教授	4/6
20	41718127	医学研究とCDISC標準	1	A2	火	3	木内 貴弘 教授 石川 ひろの 准教授	11/21
21	41718128	がん疫学	1	A1	月	4	井上 真奈美 特任教授	9/25
22	41718211	精神保健学Ⅰ	2	S1・S2	火	5	川上 憲人 教授 島津 明人 准教授	4/11
23	41718212	精神保健学Ⅱ	2	A1・A2	火	5	島津 明人 准教授 川上 憲人 教授	10/3
24	41718213	健康教育学	2	A2	金	1・2	橋本 英樹 教授	11/24
25	41718214	健康社会学	2	A1	金	1・2	橋本 英樹 教授	9/29
26	41718218	医療倫理学Ⅰ	2	S1	木	5・6	瀧本 禎之 准教授	4/6
27	41718219	医療倫理学Ⅱ	2	S2	木	5・6	瀧本 禎之 准教授	6/8
28	41718220	社会と健康Ⅰ	2	A1	木	1・2	近藤 尚己 准教授 橋本 英樹 教授 川上 憲人 教授	9/28
29	41718221	社会と健康Ⅱ	2	A2	金	3・4	近藤 尚己 准教授	11/24
30	41718222	産業保健の理論と実践	2	A1	水	1・2	川上 憲人 教授	9/27
31	41718223	保健医療人材育成学	2	S1	火	1・2	大西 弘高 講師 孫 大輔 講師	4/11
32	41718224	学習者評価学	2	A1	火	1・2	大西 弘高 講師 孫 大輔 講師	9/26
33	41718225	Health Care and Community Health in Japan	1	S2	月	4	川上 憲人 教授	6/5
34	41718311	健康医療政策学	2	A1・A2	月	5	小林 廉毅 教授 豊川 智之 准教授	9/25
35	41718312	医療情報システム学	2	S1	金	3・4	大江 和彦 教授	4/7
36	41718313	医療情報システム学実習	1	S2	木	1・2	大江 和彦 教授	6/8
37	41718316	法医学・医事法学	2	S1・S2	月	3	岩瀬 博太郎 教授	4/10
38	41718318	医療安全管理学	1	S1	水	3・4	児玉 安司 特任教授	4/19
39	41718319	医療安全管理学実習	0.5	夏季	集中	1~6	児玉 安司 特任教授	9/20
40	41718320	健康危機管理学	1	S1	月	1・2	小林 廉毅 教授	4/17
41	41718321	保健行政・健康危機管理学実習	2	夏季	集中	-	小林 廉毅 教授	9/4
42	41718322	環境健康医学	1	A1	月	2	大迫 誠一郎 准教授	9/25
43	41718323	公共健康情報学	2	S2	金	3・4	小山 博史 教授	6/9
44	41718324	公共健康情報学実習	1	A1	金	3・4	小山 博史 教授	9/29
45	41718325	科学技術コミュニケーション	2	A1	金	5・6	孫 大輔 講師	9/29
53	41718326	社会保障法政策	2	A1・A2	月	6	島崎 謙治 講師	9/25
55	41718328	国際保健政策学Ⅰ	2	S1・A1	火	3・4	渋谷 健司 教授	4/18
56	41718329	国際保健政策学Ⅱ	2	A2・W	火	3・4	渋谷 健司 教授	11/21
46	41718411	インターンシップ	2	夏季・A1・W	-	-	川上 憲人 教授	-
48	41718412	公共健康医学特論	2	S1	月	4・5	各教員	4/10
49	41618511	課題研究	6	通年	-	-	各指導教員	-

* 講義室は、原則、医学部教育研究棟13階公共健康医学専攻（SPH）講義室
* 「法医学・医事法学演習」、「医療経営学演習」、「健康増進科学」は休講とする

時間割(平成29年度)

()単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W		
曜日	時限	4/5~6/2	6/5~7/31	8/1~9/20	9/25~11/17※	11/20~1/26	1/29~3/7		
		9W	8W	8W	8W	9W	6W		
月	1 8:30-10:15	41718320-健康危機管理学(1)		夏季休業				1	月
	2 10:25-12:10				41718322-環境健康医学(1)*5		2		
	3 13:00-14:45	41718316-法医学・医事法学(2)*3						3	
	4 14:55-16:40	41718412-公共健康医学特論(2)	41718225-Health Care and Community Health in Japan (1)			41718128-がん疫学(1)		4	
	5 16:50-18:35					41718311-健康医療政策学(2)*4		5	
	6 18:45-20:30							6	
火	1 8:30-10:15	41718223-保健医療人材育成学(2)		下記特記事項参照				1	火
	2 10:25-12:10				41718224-学習者評価学(2)		2		
	3 13:00-14:45	41718120-医療コミュニケーション学(2)	41718115-医学研究のデザイン(2)*1					3	
	4 14:55-16:40							4	
	5 16:50-18:35	41718211-精神保健学 I (2)*2				41718212-精神保健学 II (2)		5	
	6 18:45-20:30							6	
水	1 8:30-10:15	41718118-保健医療経済学(2)	41718116-臨床疫学(2)	下記特記事項参照	41718222-産業保健の理論と実践(2)*5			1	水
	2 10:25-12:10							2	
	3 13:00-14:45	41718318-医療安全管理学(1)	41718122-医療コミュニケーション学演習(2)		41718127-医学研究とCDISC標準(1)			3	
	4 14:55-16:40							4	
	5 16:50-18:35							5	
	6 18:45-20:30							6	
木	1 8:30-10:15		41718313-医療情報システム学実習(1)	下記特記事項参照	41718220-社会と健康 I (2)*3	41718124-医療技術評価学演習(1)		1	木
	2 10:25-12:10	41718126-臨床医学概論(1)						2	
	3 13:00-14:45	41718113-医学データの統計解析(2)**	41718114-医学統計学演習(2)		41718117-臨床疫学・経済学演習(2)		3		
	4 14:55-16:40						4		
	5 16:50-18:35	41718218-医療倫理学 I (2)*3			41718219-医療倫理学 II (2)		5		
	6 18:45-20:30						6		
金	1 8:30-10:15			下記特記事項参照	41718214-健康社会学(2)	41718213-健康教育学(2)*2		1	金
	2 10:25-12:10	41718111-疫学研究と実践(2)*1						2	
	3 13:00-14:45	41718312-医療情報システム学(2)*4	41718323-公共健康情報学(2)		41718324-公共健康情報学実習(1)	41718221-社会と健康 II (2)	3		
	4 14:55-16:40							4	
	5 16:50-18:35				41718325-科学技術コミュニケーション(2)		5		
	6 18:45-20:30						6		

夏季休業期間	8月	2週目	41718112-予防保健の実践と評価(8/7~10)(2)
	9月	1~2週目	41718321-保健行政・健康危機管理学実習(9/4~15)(2)
		5週目	41718319-医療安全管理学実習(9/20~21)(0.5)

** 必修科目
*1~5 選択必修科目

4. 履修モデル

履修モデル「公衆衛生行政・管理」

()単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W			
曜日	時限	4/5~6/2	6/5~7/31	8/1~9/20	9/25~11/17※	11/20~1/26	1/29~3/7			
		9W	8W	8W	8W	9W	6W			
月	1 8:30-10:15	41718320- 健康危機管理学(1)		下記特記 事項参照				1	月	
	2 10:25-12:10				41718322- 環境健康医学(1)*5			2		
	3 13:00-14:45	41718316-法医学・医事法学(2)*3								3
	4 14:55-16:40	41718412- 公共健康医学特論(2)	41718225-Health Care and Community Health in Japan (1)			41718128-がん疫学(1)				4
	5 16:50-18:35					41718311-健康医療政策学(2)*4				5
	6 18:45-20:30									6
火	1 8:30-10:15	41718223- 保健医療人材育成学 (2)		下記特記 事項参照	41718224- 学習者評価学(2)			1	火	
	2 10:25-12:10							2		
	3 13:00-14:45	41718120- 医療コミュニケーション学(2)	41718115- 医学研究のデザイン(2)*1							3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35	41718211-精神保健学 I (2)*2				41718212-精神保健学 II (2)				5
	6 18:45-20:30									6
水	1 8:30-10:15	41718118- 保健医療経済学(2)	41718116-臨床疫学(2)	下記特記 事項参照	41718222- 産業保健の理論と実 践(2)*5			1	水	
	2 10:25-12:10							2		
	3 13:00-14:45	41718318- 医療安全管理学(1)	41718122- 医療コミュニケーション学演習 (2)			41718127-医学研究と CDISC標準(1)				3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35									5
	6 18:45-20:30									6
木	1 8:30-10:15		41718313- 医療情報システム学実習(1)	下記特記 事項参照	41718220- 社会と健康 I (2)*3	41718124-医療技術 評価学演習(1)		1	木	
	2 10:25-12:10	41718126- 臨床医学概論(1)						2		
	3 13:00-14:45	41718113-医学データの 統計解析(2)**	41718114-医学統計学演 習(2)			41718117-臨床疫学・経済学演習(2)				3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35	41718218- 医療倫理学 I (2)*3	41718219- 医療倫理学 II (2)							5
	6 18:45-20:30									6
金	1 8:30-10:15			下記特記 事項参照	41718214- 健康社会学(2)	41718213- 健康教育学(2)*2		1	金	
	2 10:25-12:10	41718111-疫学研究と実践(2)*1						2		
	3 13:00-14:45	41718312- 医療情報システム学 (2)*4	41718323- 公共健康情報学(2)			41718324- 公共健康情報学実習 (1)	41718221- 社会と健康 II (2)			3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35					41718325-科学技術コ ミュニケーション(2)				5
	6 18:45-20:30									6

夏季休業期間	8月	2週目	41718112-予防保健の実践と評価(8/7~10)(2)
	9月	1~2週目	41718321-保健行政・健康危機管理学実習(9/4~15)(2)
		5週目	41718319-医療安全管理学実習(9/20~21)(0.5)

** 必修科目
*1~5 選択必修科目

履修モデル「保健アナリスト・コーディネーター」

()単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W			
曜日	時限	4/5~6/2	6/5~7/31	8/1~9/20	9/25~11/17※	11/20~1/26	1/29~3/7			
		9W	8W	8W	8W	9W	6W			
月	1 8:30-10:15	41718320-健康危機管理学(1)		下記特記事項参照				1	月	
	2 10:25-12:10				41718322-環境健康医学(1)*5			2		
	3 13:00-14:45	41718316-法医学・医事法学(2)*3								3
	4 14:55-16:40	41718412-公共健康医学特論(2)	41718225-Health Care and Community Health in Japan (1)			41718128-がん疫学(1)				4
	5 16:50-18:35					41718311-健康医療政策学(2)*4				5
	6 18:45-20:30									6
火	1 8:30-10:15	41718223-保健医療人材育成学(2)		下記特記事項参照	41718224-学習者評価学(2)			1	火	
	2 10:25-12:10							2		
	3 13:00-14:45	41718120-医療コミュニケーション学(2)	41718115-医学研究のデザイン(2)*1							3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35	41718211-精神保健学 I (2)*2				41718212-精神保健学 II (2)				5
	6 18:45-20:30									6
水	1 8:30-10:15	41718118-保健医療経済学(2)	41718116-臨床疫学(2)	下記特記事項参照	41718222-産業保健の理論と実践(2)*5			1	水	
	2 10:25-12:10							2		
	3 13:00-14:45	41718318-医療安全管理学(1)	41718122-医療コミュニケーション学演習(2)			41718127-医学研究とCDISC標準(1)				3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35									5
	6 18:45-20:30									6
木	1 8:30-10:15		41718313-医療情報システム学実習(1)	下記特記事項参照	41718220-社会と健康 I (2)*3	41718124-医療技術評価学演習(1)		1	木	
	2 10:25-12:10	41718126-臨床医学概論(1)						2		
	3 13:00-14:45	41718113-医学データの統計解析(2)**	41718114-医学統計学演習(2)			41718117-臨床疫学・経済学演習(2)				3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35	41718218-医療倫理学 I (2)*3	41718219-医療倫理学 II (2)							5
	6 18:45-20:30									6
金	1 8:30-10:15			下記特記事項参照	41718214-健康社会学(2)	41718213-健康教育学(2)*2		1	金	
	2 10:25-12:10	41718111-疫学研究と実践(2)*1						2		
	3 13:00-14:45	41718312-医療情報システム学(2)*4	41718323-公共健康情報学(2)			41718324-公共健康情報学実習(1)	41718221-社会と健康 II (2)			3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35					41718325-科学技術コミュニケーション(2)				5
	6 18:45-20:30									6

夏季休業期間	8月	2週目	41718112-予防保健の実践と評価(8/7~10)(2)
	9月	1~2週目	41718321-保健行政・健康危機管理学実習(9/4~15)(2)
		5週目	41718319-医療安全管理学実習(9/20~21)(0.5)

** 必修科目
*1~5 選択必修科目

履修モデル「臨床疫学・アウトカム評価」

()単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W			
曜日	時限	4/5~6/2	6/5~7/31	8/1~9/20	9/25~11/17※	11/20~1/26	1/29~3/7			
		9W	8W	8W	8W	9W	6W			
月	1 8:30-10:15	41718320- 健康危機管理学(1)		下記特記 事項参照				1	月	
	2 10:25-12:10				41718322- 環境健康医学(1)*5		2			
	3 13:00-14:45	41718316-法医学・医事法学(2)*3						3		
	4 14:55-16:40	41718412- 公共健康医学特論(2)	41718225-Health Care and Community Health in Japan (1)			41718128-がん疫学(1)		4		
	5 16:50-18:35					41718311-健康医療政策学(2)*4		5		
	6 18:45-20:30							6		
火	1 8:30-10:15	41718223- 保健医療人材育成学 (2)		下記特記 事項参照	41718224- 学習者評価学(2)			1	火	
	2 10:25-12:10							2		
	3 13:00-14:45	41718120- 医療コミュニケーション学(2)	41718115- 医学研究のデザイン(2)*1					3		
	4 14:55-16:40							4		
	5 16:50-18:35	41718211-精神保健学 I (2)*2				41718212-精神保健学 II (2)		5		
	6 18:45-20:30							6		
水	1 8:30-10:15	41718118- 保健医療経済学(2)	41718116-臨床疫学(2)	下記特記 事項参照	41718222- 産業保健の理論と実 践(2)*5			1	水	
	2 10:25-12:10							2		
	3 13:00-14:45	41718318- 医療安全管理学(1)	41718122- 医療コミュニケーション学演習 (2)			41718127-医学研究と CDISC標準(1)		3		
	4 14:55-16:40							4		
	5 16:50-18:35							5		
	6 18:45-20:30							6		
木	1 8:30-10:15		41718313- 医療情報システム学実習(1)	下記特記 事項参照	41718220- 社会と健康 I (2)*3			1	木	
	2 10:25-12:10	41718126- 臨床医学概論(1)				41718124-医療技術 評価学演習(1)		2		
	3 13:00-14:45	41718113-医学データの 統計解析(2)**	41718114-医学統計学演 習(2)			41718117-臨床疫学・経済学演習(2)		3		
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35	41718218- 医療倫理学 I (2)*3			41718219- 医療倫理学 II (2)			5		
	6 18:45-20:30							6		
金	1 8:30-10:15			下記特記 事項参照	41718214- 健康社会学(2)	41718213- 健康教育学(2)*2		1	金	
	2 10:25-12:10	41718111-疫学研究と実践(2)*1								2
	3 13:00-14:45	41718312- 医療情報システム学 (2)*4	41718323- 公共健康情報学(2)			41718324- 公共健康情報学実習 (1)	41718221- 社会と健康 II (2)			3
	4 14:55-16:40									
	5 16:50-18:35					41718325-科学技術コ ミュニケーション(2)		5		
	6 18:45-20:30							6		

夏季休業期間	8月	2週目	41718112-予防保健の実践と評価(8/7~10)(2)
	9月	1~2週目	41718321-保健行政・健康危機管理学実習(9/4~15)(2)
		5週目	41718319-医療安全管理学実習(9/20~21)(0.5)

** 必修科目
*1~5 選択必修科目

履修モデル「医療情報・臨床工学」

()単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W		
曜日	時限	4/5~6/2	6/5~7/31	8/1~9/20	9/25~11/17※	11/20~1/26	1/29~3/7		
		9W	8W	8W	8W	9W	6W		
月	1 8:30-10:15	41718320- 健康危機管理学(1)		下記特記 事項参照				1	月
	2 10:25-12:10				41718322- 環境健康医学(1)*5		2		
	3 13:00-14:45	41718316-法医学・医事法学(2)*3					3		
	4 14:55-16:40	41718412- 公共健康医学特論(2)	41718225-Health Care and Community Health in Japan (1)		41718128-がん疫学(1)		4		
	5 16:50-18:35				41718311-健康医療政策学(2)*4		5		
	6 18:45-20:30						6		
火	1 8:30-10:15	41718223- 保健医療人材育成学 (2)		下記特記 事項参照	41718224- 学習者評価学(2)			1	火
	2 10:25-12:10						2		
	3 13:00-14:45	41718120- 医療コミュニケーション学(2)	41718115- 医学研究のデザイン(2)*1				3		
	4 14:55-16:40						4		
	5 16:50-18:35	41718211-精神保健学 I (2)*2			41718212-精神保健学 II (2)		5		
	6 18:45-20:30						6		
水	1 8:30-10:15	41718118- 保健医療経済学(2)	41718116-臨床疫学(2)	下記特記 事項参照	41718222- 産業保健の理論と実 践(2)*5			1	水
	2 10:25-12:10						2		
	3 13:00-14:45	41718318- 医療安全管理学(1)	41718122- 医療コミュニケーション学演習 (2)		41718127-医学研究と CDISC標準(1)		3		
	4 14:55-16:40						4		
	5 16:50-18:35						5		
	6 18:45-20:30						6		
木	1 8:30-10:15		41718313- 医療情報システム学実習(1)	下記特記 事項参照	41718220- 社会と健康 I (2)*3	41718124-医療技術 評価学演習(1)		1	木
	2 10:25-12:10	41718126- 臨床医学概論(1)					2		
	3 13:00-14:45	41718113-医学データの 統計解析(2)**	41718114-医学統計学演 習(2)		41718117-臨床疫学・経済学演習(2)		3		
	4 14:55-16:40						4		
	5 16:50-18:35	41718218- 医療倫理学 I (2)*3	41718219- 医療倫理学 II (2)				5		
	6 18:45-20:30						6		
金	1 8:30-10:15			下記特記 事項参照	41718214- 健康社会学(2)	41718213- 健康教育学(2)*2		1	金
	2 10:25-12:10	41718111-疫学研究と実践(2)*1					2		
	3 13:00-14:45	41718312- 医療情報システム学 (2)*4	41718323- 公共健康情報学(2)		41718324- 公共健康情報学実習 (1)	41718221- 社会と健康 II (2)	3		
	4 14:55-16:40						4		
	5 16:50-18:35				41718325-科学技術コ ミュニケーション(2)		5		
	6 18:45-20:30						6		

夏季休業期間	8月	2週目	41718112-予防保健の実践と評価(8/7~10)(2)
	9月	1~2週目	41718321-保健行政・健康危機管理学実習(9/4~15)(2)
		5週目	41718319-医療安全管理学実習(9/20~21)(0.5)

** 必修科目
*1~5 選択必修科目

5. シラバス

科 目 名	疫学研究と実践 [科目番号：41718111]		
タ ー ム	夏学期	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金曜・2時限		
場 所	医学部教育研究棟 13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	佐々木敏		
授 業 の 目 的	<p>地域・職域など、社会（生活環境下）で実施する疫学研究の理論と方法についての基本を理解することを目的とする。この種の疫学研究を実施・実践する際や利用する際に考慮すべき点を理解し、その具体的な方法と技術について学ぶ。</p> <p>主な内容は次の通り：予防保健と疫学の関連、疫学的思考、疫学研究論文の読み方、疫学研究のデザイン、測定誤差の種類と対策、疾患からみた疫学研究、生活要因からみた疫学研究、保健業務（特定保健指導等）における疫学研究の考え方と方法、保健業務や疾病予防活動への研究成果の利用方法、その他。</p>		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回ひとつのテーマを選んで講義を行う。 ・テーマ毎に資料が配布される。 ・4回目から13回目までは毎回講義後に宿題（小レポート）が課される。 ・6回目から13回目までは小レポートの発表が課されることがある。 		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 4/7 序論 2) 4/14 疫学の歴史と社会的役割 3) 4/21 記述疫学の目的と方法 4) 4/28 生態学的研究の目的と方法 (注意) 5/5 は休講 5) 5/12 横断研究の目的と方法 6) 5/19 測定誤差とその具体的な対策 (1) 7) 5/26 測定誤差とその具体的な対策 (2) 8) 6/2 症例対照研究の目的と方法 9) 6/9 コホート研究の目的と方法 10) 6/16 介入研究の目的と方法 (1) 11) 6/23 介入研究の目的と方法 (2) 12) 6/30 レビュー・メタ・アナリシスの目的と方法 13) 7/7 疫学研究の保健活動への活用 (注意) 7/14 は予備日 		
教科書・参考書等	講義毎に異なる。適宜指示する。		
成績評価の方法	出席（配点：およそ4割）、小レポート（同：およそ4割）と講義時間中の質疑応答など（同：およそ2割）を合算して判定する。		
他の授業との関連	<p>「予防保健の実践と評価」を学ぶための必須の基礎理論となる。</p> <p>「医学データの統計解析」、「健康教育学」と関連する。</p>		

科 目 名	予防保健の実践と評価 [科目番号：41718112]		
タ ー ム	夏季休業期間	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	8月7～10日（2～4時限）		
場 所	医学部教育研究棟 13階 公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担 当 教 員	佐々木敏		
授 業 の 目 的	地域・職域などをフィールドとして行う疫学研究や予防保健領域の実践活動の計画・実践・評価の方法、政策への活用などについて、さまざまな実例を用いて、実践者・研究者からの紹介を通じて学ぶ。理論だけでは解決できない現実に対して科学性を保ちながらどのように対処するかという実践的な視点からの予防保健の知識や技術の獲得を主な目的とする。		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回1つのテーマを選び、担当教員と外来講師が講義を行い、その後に学生との討論（質疑応答）を行う。 ・テーマごとに資料が配布される。 		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	<p>1) 8/7 実生活・実社会の中で行われる予防保健分野の介入試験はどのように計画され、実施されるべきかについて、沖縄の健康問題を例に学ぶ。</p> <p>2) 8/8 たばこ（喫煙）を例にあげて、予防保健の理論と実践ならびにその評価方法について学ぶ。特に、社会問題としてのたばこ問題に注目する。</p> <p>3) 8/9 予防保健の評価技術：「健康日本21」「行政調査」をはじめ、国や地方自治体などが行っている健康施策の実践ならびに評価の方法・技術について、実例を交えて学ぶ。</p> <p>4) 8/10 地域における医療・予防保健実践活動：実践可能性を重視し、理論・数字を超えた現実について実例を交えて学ぶ。</p> <p>原則としてすべての日で、担当教員による基礎知識に関する講義、外来講師（実践者・研究者）による講義、外来講師を交えた討論を行う。</p> <p>（注意）講義期日順序ならびに内容は変更がありうる。公共健康医学専攻以外の学生は7月下旬に担当教官宛に事前に確認をされたい。</p>		
教科書・参考書等	講義毎に異なる。適宜指示する。		
成績評価の方法	講義への出席（配点：およそ4割）ならびに講義内での討論の内容（質問と発言）（配点：およそ6割）を総合的に評価して判定する。		
他の授業との関連	「疫学研究と実践」で学んだ知識・理論を実践につなげられる能力を養うことを目的とする。「医学データの統計解析」、「健康教育学」、「健康医療政策学」と関連する。		

科 目 名	医学データの統計解析			[科目番号：41718113]
タ ー ム	S1	単 位 数	2	
曜日・授業時間帯	木曜日 3・4限			
場 所	医学部教育研究棟 13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室			
担 当 教 員	松山 裕			
授 業 の 目 的	統計的推測の基礎とともに、医学研究で日常的に用いられる統計解析手法、及びやや高度ながら身に付けておくべき統計解析手法について、実例を中心に教え、医学論文を読むうえで必須となる統計基礎知識を習得させると同時に、自らが統計解析を行ううえでの基礎能力を身に付けることを目的とする。			
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義形式 (テーマごとに資料が配布される) ・ 毎回の講義に関連したミニレポートを毎週提出すること 			
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>4月06日 医学研究における統計学の活用</p> <p>4月13日 治療効果・曝露効果の指標と95%信頼区間</p> <p>4月20日 2群の比較</p> <p>4月27日 層別解析・ロジスティック回帰</p> <p>5月11日 分散分析入門・相関と回帰</p> <p>5月18日 生存時間解析</p> <p>5月25日 経時データ解析入門、サンプルサイズ設計</p> <p>6月01日 評価尺度の信頼性と妥当性</p> <p>期末試験の日時は、7月31日(月)2限(10時25分-12時10分)</p>			
教科書・参考書等	<p>初級者向け参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はじめて学ぶ医療統計学. 折笠秀樹 監訳 (総合医学社) ・ 一歩進んだ医療統計学. 折笠秀樹 監訳 (総合医学社) <p>中級者以上向け参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医学研究における実用統計学. DG Altman 著 木船・佐久間訳 (サイエンティスト社) ・ Lang et al. (著) 大橋・林 監訳: わかりやすい医学統計の報告-医学論文作成のためのガイドライン- 中山書店、2011. ・ 医師のための臨床統計学 基礎編. 大橋靖雄 編著 医歯薬出版株式会社 			
成績評価の方法	期末試験 (80%)、毎回の小レポート (10%)、出席 (10%) で評価する。			
他の授業との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「医学統計学演習」履修のための基礎となる。 ・ 「疫学研究の実践」、「医学研究のデザイン」、「臨床疫学」と関連する。 			
備 考 欄				

科 目 名	医学統計学演習 [科目番号：41718114]		
タ ー ム	S2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木曜・3～4時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	大庭 幸治、伊藤陽一 (非常勤)		
授 業 の 目 的	前半は、「医学データの統計解析」で講義された主要な統計手法について、実例を用いて統計解析ソフト JMP で演習を行う。 後半、公開データを用いて、実際に JMP を用いた解析を行い、解析結果の発表を行い結果の提示方法を学ぶ。		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初に JMP の使用についての演習を行う。 ・ 前半は各テーマについて簡単なインストラクションを行い、ついで実例を用いた解析演習を行い、レポートを作成する。 ・ 後半では、実際のデータを JMP を用いて解析し、班別に結果を発表する。 		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	6月8日 JMP 入門 6月15日 2 群の比較 6月22日 相関と回帰、分散分析 6月29日 分割表の解析とロジスティック回帰 7月6日 生存時間解析 7月13日 JMP を用いた探索的データ解析 7月20日 データ解析実習 7月27日 結果発表会		
教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「医学データの統計解析」と同様 ・ SAS によるデータ解析入門 (東大出版会) ・ SAS による実験データの解析 (東大出版会) ・ 生存時間解析：SAS による生物統計 (東大出版会) 		
成績評価の方法	出席(50%)とレポート(50%)で合・否判定する。		
他の授業との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「医学データの統計解析」履修を条件とする。 ・ 「医学研究のデザイン」と関連する。 		
備 考	アンケートを反映させて、TA の適切な配置、演習とインストラクションの時間配分を変更しております。		

科 目 名	医学研究のデザイン [科目番号：41718115]		
タ ー ム	S2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火曜日 3・4限		
場 所	医学部教育研究棟 13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	松山 裕、林健一 (非常勤講師)、佐々木秀雄 (非常勤講師)、柴田大朗 (非常勤講師)		
授 業 の 目 的	疫学研究・臨床試験のデザインと実際の研究運営についての講義・演習を行う。 主要雑誌に掲載される論文について、特にデザインについて理解するための基礎知識を習得し、共同作業でプロトコルを策定できる能力並びに研究事務局に参画するために必要とされる能力を磨くことを目指す。		
授 業 の 方 法	・ テーマ毎に講義・演習を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	6/06 研究デザインの分類と特徴：臨床試験のデザイン総論 (松山) 6/13 研究デザインの分類と特徴：疫学研究のデザイン総論 (松山) 6/20 臨床試験のデザインとプロトコル作成：CONSORT による論文チェック (林) 6/27 疫学研究のデザインとプロトコル作成：STROBE による論文チェック (林) 7/04 データマネージメントと品質管理：研究組織と運営 (佐々木) 7/11 医薬品の承認審査・先進医療の評価の概要と実際 (柴田) 7/18 傾向スコアを用いた研究デザイン：傾向スコアの正しい使い方 (松山)		
教科書・参考書等	講義毎に異なるので適宜指示する。ただし以下を国際的にも評価の高い一般的な教科書として推薦する。 ・Hulley et al. (著) 木原・木原 訳：医学的研究のデザイン、メディカルサイエンスインターナショナル、2009。 ・Lang et al. (著) 大橋・林 監訳：わかりやすい医学統計の報告・医学論文作成のためのガイドライン・中山書店、2011。		
成績評価の方法	出席 (50%)、レポート・演習報告等 (50%) で評価する。		
他の授業との関連	「医学データの統計解析」、「疫学研究と実践」、「臨床疫学」と関連する。		
備 考 欄			

科目名	臨床疫学 [科目番号: 41718116]		
学期	S2	単位数	2
曜日・授業時間帯	水曜 1・2 限 (8 週)		
場所	医学部・教育研究棟 13 階 SPH 講義室		
担当教員	康永秀生 山崎力 (東京大学医学部附属病院・臨床試験センター 教授) 吉村典子 (東京大学医学部附属病院ロコモ予防学講座 特任教授) 森臨太郎 (国立成育医療研究センター・政策科学研究部、臨床疫学部 部長) 堀口裕正 (国立病院機構本部総合研究センター診療情報分析部)		
授業の目的	臨床疫学研究のテーマは、日常臨床の中に潜んでいる。Clinical practice から research question を紡ぎ出し、研究仮説を立て、適切なデザインを構築し、利用可能なデータから意味のある分析結果を出し、臨床的に妥当な解釈を行う。これら一連のプロセスを遂行するために不可欠となる臨床疫学の理論および実践的な方法論を身につける。		
授業の方法	事前に渡された関連文献を熟読してくること。それを前提として講義で基礎的知識を提供・整理したのち、既存の研究を題材にディスカッションをしてもらい知識の体系化を図る。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) (6月7日1限) 臨床疫学の基礎知識1 (康永) 2) (6月7日2限) 臨床疫学の基礎知識2 (康永) 3) (6月14日1限) 健診・検診 (康永) 4) (6月14日2限) 臨床診断 (康永) 5) (6月21日1限) リスク・予後 (康永) 6) (6月21日2限) 回帰分析の注意点 (康永) 7) (6月28日1限) 傾向スコア分析(propensity score analysis) (康永) 8) (6月28日2限) 操作変数法(instrumental variable method) (康永) 9) (7月5日1限) 症例対照研究/コホート研究の理論 (康永) 10) (7月5日2限) コホート研究の実際—ROAD プロジェクト (吉村) 11) (7月12日1限) ヘルスサービスリサーチ (康永) 12) (7月12日2限) 系統的レビューとコクラン (森) 13) (7月19日1限) 大規模データベースによる臨床疫学研究 (康永/堀口) 14) (7月19日2限) 研究者主導臨床試験 (山崎) 15) 16) (7月26日1・2限) レポート発表会 (康永) ※講義の順番は変更することがある		
教科書・参考書等	Fletcher RW, Fletcher SW. Clinical Epidemiology; The Essentials. Fifth Edition. Lippincott, Williams & Wilkins. 2012		
成績評価の方法	出席点 50 点、レポート 50 点		
他の授業との関連	「疫学研究と実践」「医学データの統計解析」「医学研究のデザイン」などに関連する。「臨床疫学・経済学演習」と強く関連する。 <u>非医師の学生で本講義の履修を希望する者は、S1 ターム「臨床医学概論」の履修を強く推奨する。</u>		

科目名	臨床疫学・経済学演習 [科目番号: 41718117]			
学期	A1・A2	単位数	2	
曜日・授業時間帯	木曜 3・4 限 (14 週)			
場所	医学部・教育研究棟 13 階 SPH 講義室			
担当教員	康永秀生 城 大祐 (ヘルスサービスリサーチ講座・特任准教授)			
授業の目的	<p>1. 医学英語論文の書き方を学ぶ 在学中から医学英語論文を書こうと真剣に考えている学生を対象とする。</p> <p>2. 研究費申請書の書き方を学ぶ 卒業後に研究費を申請することを真剣に検討している学生を対象とする。 各自の臨床または公衆衛生の経験をもとに研究テーマを確立し、研究の背景・目的・方法・期待される結果を記述し、研究経費の見積もり等を作成する、実践的なスキルを身につける。(論文執筆や研究費申請の経験の有無は問わない)</p>			
授業の方法	原則として、3 限は医学英語論文の書き方演習、4 限は和文の研究費申請書(文部科学研究・基盤 C または若手 B のフォーマットに従う)作成の個別指導。			
授業計画及び内容 (各回のテーマ)		3 限	4 限	
	1	9/28	医学論文を書くための準備(1)	研究費申請書の書き方(1)
	2	10/5	医学論文を書くための準備(2)	研究費申請書の書き方(2)
	3	10/12	Title の書き方	個別指導
	4	10/19	Abstract の書き方	個別指導
	5	10/26	Introduction の書き方	研究計画の口頭説明
		11/2	(公衆衛生学会のため休み)	
	6	11/9	Methods, Results の書き方	個別指導
	7	11/16	Discussion の書き方(1)	個別指導
		11/23	(祝日のため休み)	
	8	11/30	Discussion の書き方(2)	個別指導
	9	12/7	Discussion の書き方(3)	個別指導
	10	12/14	論文の Submission	個別指導
	11	12/21	研究計画の中間発表	
	12	1/11	論文の Revision	個別指導
13	1/18	Reviewer comment の書き方(1)	個別指導	
14	1/25	Reviewer comment の書き方(2)	研究費申請書の審査	
	※講義・演習の順番は変更となることがある。※各自ノートパソコンを持参。			
教科書・参考書等	なし			
成績評価の方法	出席 30%、レポート 30%、最後に提出する研究費申請書 40%により評価する。			
他の授業との関連	<p>※履修・聴講ともに、「臨床疫学」講義の受講が必須。 履修(3・4 限ともに履修し単位取得)希望者は、10 名程度まで受け入れ可。 「臨床疫学」講義の受講者から、本演習の履修希望者を7月中に募集する。 履修希望者が10 名を超える場合は、「臨床疫学」講義の成績上位者を優先する。 3 限のみの聴講は可能。(この場合も「臨床疫学」講義の受講は必須。単位取得はできないので注意)。4 限の聴講のみは不可。</p>			

科目名	保健医療経済学 [科目番号：41718118]		
学期	S1	単位数	2
曜日・授業時間帯	水曜・1－2時限（7週）		
場所	医学部教育研究棟 13階 公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担当教員	康永秀生 後藤励（慶應義塾大学経営管理研究科准教授）		
授業の目的	1. 医療経済学の基礎知識を身に着ける。 2. 医療経済学の考え方に沿って、現実の医療経済政策における個別の課題について考察する力をつける。		
授業の方法	講義、ディスカッション、レポート		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	1) 医療経済学の基礎 1（康永）（4月5日 1限） 2) 医療経済学の基礎 2（康永）（4月5日 2限） 3) 保険の理論（康永）（4月19日 1限） 4) 医療サービスの生産効率性（康永）（4月19日 2限） 5) 医療サービス市場における競争・規制（康永）（4月26日 1限） 6) 供給者誘発需要仮説（康永）（4月26日 2限） 7) 医療経済学と医療政策 1（康永）（5月10日 1限） 8) 医療制度の国際比較（康永）（5月10日 2限） 9) 医療経済学と医療政策 2（康永）（5月17日 1限） 10) 行動経済学（後藤）（5月17日 2限） 11) 医療経済学と医療政策 3（康永）（5月24日 1限） 12) 医療費増加の要因（康永）（5月24日 2限） 13) 医療経済学と医療政策 4（康永）（5月31日 1限） 14) 医療経済学と医療政策 5（康永）（5月31日 2限） ※各講義の順番は変更することがある		
教科書・参考書等	橋本英樹/泉田信行編. 医療経済学講義. 東京大学出版会		
成績評価の方法	出席 50%、レポート 50%		
他の授業との関連	「医療技術評価学演習」、「健康医療政策学」などに関連する。		

科 目 名	医療コミュニケーション学 [科目番号：41718120]		
タ ー ム	S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火曜 3、4 時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	石川ひろの 他		
授 業 の 目 的	<p>本講義の目的は、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の理論と実践を体系的に学習することにある。</p> <p>医療コミュニケーション学（ヘルスコミュニケーション学）とは、医療・公衆衛生分野を対象としたコミュニケーション学であり、保健医療専門職間、保健医療専門職と患者・市民間、患者・市民間等における健康や医療に関連した知識や情報などのコミュニケーションを対象とする。本講義では、保健医療・公衆衛生分野における専門職として効果的なコミュニケーションを実践するために必要な、(1)コミュニケーションの基本的な理論、(2)コミュニケーションの具体的な方略やスキル、(3)コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱う。本講義の受講によって、医療コミュニケーションを実践し、改善していくために必要な基礎的な知識を得ることができる。</p>		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 各回1テーマの講義を行う。 テーマに基づいた追加資料の配布やグループワークを行うことがある。 		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4月11日3限	医療コミュニケーション学概論	石川ひろの
	4月11日4限	保健医療専門職の教育 コミュニケーションスキルの教育と評価	石川ひろの
	4月18日3限	ヘルス・コミュニケーションの方略① 個人の行動変容を促すコミュニケーション	石川雄一 (日本ヘルスライフセンター)
	4月18日4限	患者・市民の教育 賢い患者・市民を育てる試み	山口育子 (COML)
	4月25日3限	グループ・組織のコミュニケーション グループダイナミクスとリーダーシップ	石川ひろの
	4月25日4限	ヘルス・コミュニケーションの方略② 行動変容を促す保健医療文書の作り方	奥原剛
	5月9日3限	ヘルス・コミュニケーションの方略③ 集団の行動変容を促すコミュニケーション	石川善樹 (キャンパスキャン)
	5月9日4限	政策形成とアドボカシーのコミュニケーション アドボカシーの概念と人材育成	神馬征峰 (国際地域保健学)
	5月16日3限	メディア・コミュニケーション①: テレビ	市川衛 (NHK)
	5月16日4限	ヘルス・コミュニケーションの方略④ エンターテイメント・エデュケーション	加藤美生
	5月23日3限	メディア・コミュニケーション②: 新聞	本田麻由美 (読売新聞)
	5月23日4限	ヘルス・コミュニケーションの研究 コミュニケーションの分析と実証研究	石川ひろの
	5月30日3限	メディア・コミュニケーション③: インターネット	中山和弘 (聖路加国際大学)
	5月30日4限	まとめ: グループ討論と総合討論	石川ひろの、 加藤美生、奥原剛
教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> Athena du Pre. Communicating About Health: Current Issues and Perspectives. 4th ed. Oxford University Press. 2013 Peter G. Northouse & Laurel L. Northouse 著. 萩原明人 訳. ヘルス・コミュニケーション改訂版. 九州大学出版会. 2010 Debra L. Roter & Judith A. Hall 著. 石川ひろの、武田裕子 訳. 患者と医師のコミュニケーション—より良い関係作りの科学的根拠. 篠原出版新社. 2007 藤崎和彦、橋本英樹 著. 医療コミュニケーション研究会 編. 医療コミュニケーション—実証研究への多面的アプローチ. 篠原出版新社. 2010 		
成績評価の方法	講義への出席 (30%)、レポート (70%) による。		
他の授業との関連	医療コミュニケーション学演習の前に受講することが望ましい。健康社会学、健康教育学、科学技術コミュニケーション、医学研究と CDISC 標準、等と関連する。		

科 目 名	医療コミュニケーション学演習 [科目番号：41718122]		
タ ー ム	S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	水曜3-4限		
場 所	医学部教育研究棟13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	石川ひろの 岡田昌史 他		
授 業 の 目 的	効果的な医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）を行うために必要なスキルを、対人コミュニケーション、メディアを通じたコミュニケーションそれぞれ具体的に取り上げ、演習を行うことによって、「医療コミュニケーション学」の講義で学んだ理論や方略に対する理解を深めるとともに、具体的な医療コミュニケーションの場（医療機関、官公庁、教育機関、研究機関、患者支援組織、マスコミ等）でこれらを生かすことができるようにすることを目的とする。		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 各回、課題にもとづいて演習・発表・討論を行う。 演習毎にプレゼンテーション、レポート提出、相互評価等を行う。 		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	6月7日(水) 13:00-16:40	文書によるコミュニケーション 行動変容を促す保健医療文書を作る	石川ひろの 奥原剛
	6月14日(水) 13:00-16:40	インターネットによる情報発信 インターネット演習 (1) 注意：ノートPC持参	石川ひろの 岡田昌史
	6月21日(水) 13:00-16:40	自分を知る・相手を知る MBTI (Myers-Briggs Type Indicator) 演習 (1)	園田由紀 (日本MBTI協会)
	6月28日(水) 13:00-16:40	自分を知る・相手を知る MBTI 演習 (2)	園田由紀 (日本MBTI協会)
	7月5日(水) 13:00-16:40	自分を知る・相手を知る MBTI 演習 (3)	園田由紀 (日本MBTI協会)
	7月12日(水) 13:00-16:40	メディア報道のあり方を考える メディアドクター演習	渡邊清高 (帝京大学)
	7月19日(水) 13:00-16:40	行動変容を支援するスキル コーチング演習	田口智博 (三重大学)
	7月26日(水) 13:00-16:40	インターネットによる情報発信 インターネット演習 (2) 注意：ノートPC持参	石川ひろの 岡田昌史
教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> 田近秀敏：[実践]ビジネス・コーチング—プロフェッショナル・コーチの工具箱、PHP 研究所、2003 園田由紀（訳）：MBTI への招待—C.G.ユングの「タイプ論」の応用と展開、金子書房、2002 梅田望夫：ウェブ進化論 本当の大変化はこれから始まる、ちくま新書、2006 		
成績評価の方法	演習への参加 (50%)、演習内でのプレゼンテーション (20%)、作成した資料・レポート (30%) によって評価する。演習への参加が前提となるため、やむを得ず欠席する場合には、事前に事情を届け出ること。		
他の授業との関連	「医療コミュニケーション学」講義の受講が望ましい。		

科目名	医療技術評価学演習 [科目番号: 41718124]		
学期	A2	単位数	1
曜日・授業時間帯	木曜 2 限 (10:25—12:10) ・ 7 週		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	康永秀生 池田俊也 (国際医療福祉大学) 福田敬 (国立保健医療科学院) 白岩健 (国立保健医療科学院) 五十嵐中 (薬学系研究科)		
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療技術評価(Health Technology Assessment, HTA)の基本を身に着ける。 ・ 費用効果分析のための臨床アウトカム及びコスト情報の収集、QOL 評価、決定樹・マルコフモデルの作成、費用対効果の算出、感度分析などの一連の医療経済評価手法を学ぶ。 		
授業の方法	系統講義。一部、電卓やパソコンを用いた演習を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> 1. (11 月 30 日) 医療技術評価学の基礎 (康永) 2. (12 月 7 日) QOL 評価 (五十嵐) 3. (12 月 14 日) 費用効果分析・その 1 (康永) 4. (12 月 21 日) 費用効果分析・その 2 (康永) 5. (1 月 11 日) メタアナリシス (白岩) 6. (1 月 18 日) 国内外の医療技術評価の動向 (福田) 7. (1 月 25 日) 医療技術評価と医療政策 (池田) ※講義の順番は変更することがある		
教科書・参考書等	Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes Third Edition. 2005		
成績評価の方法	出席 50%、レポート 50%		
他の授業との関連	「保健医療経済学」、「臨床疫学」の各講義と関連する。		

科目名	臨床医学概論 [科目番号：41718126]		
学期	S1	単位数	1
曜日・授業時間帯	木曜2限(10:25—12:10)・7週		
場所	医学部教育研究棟13階 公共健康医学専攻(SPH)講義室		
担当教員	康永秀生		
授業の目的	非医師の学生向け。 臨床医学に関する基礎知識を身に着ける。 医学用語を習得し、医学論文を読むための基礎力を養う。		
授業の方法	系統講義を通じて、解剖・生理、診断・治療および疾患の疫学について要点を解説する。また、医学用語(日本語・英語)を解説し、基礎的な医学論文の読解を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1. 脳神経(4/6) 2. 循環器・呼吸器(4/13) 3. 消化器(4/20) 4. 腎・泌尿器、生殖器(4/27) 5. 感覚器、運動器(5/11) 6. 感染症、中毒、血液(5/18) 7. 内分泌・代謝、膠原病・アレルギー(5/25) ※講義の順番は変更することあり		
教科書・参考書等	毎回、テーマ毎に資料が配布される		
成績評価の方法	出席50%、レポート50%		
他の授業との関連	「疫学研究と実践」、「医学研究のデザイン」と関連する。 「臨床疫学」と強く関連する。 <u>非医師の学生で「臨床疫学」講義の履修を希望する者は、本講義の履修を強く推奨する。</u>		

科 目 名	医学研究と CDISC 標準		[科目番号：41718127]
タ ー ム	A 2	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	火曜日・3限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	木内貴弘 石川ひろの 岡田昌史		
授 業 の 目 的	<p>臨床研究の電子データ交換の国際標準として、日本および米国の薬事申請で必須とされている規格である CDISC(Clinical Data Interchange Standards Consortium) 標準と、その背景となる臨床研究データマネジメント論について講義を行う。CDISC 標準は、臨床研究データ、およびそれに付随するメタデータの規格であり、臨床試験情報の電子的な収集、交換、申請、アーカイブ化等、研究実施のあらゆる場面で活用が可能である。</p> <p>広く普及した医療情報交換規格およびその成立背景について知ることを通じて、データの相互運用性(Interoperability)の重要性を学ぶとともに、医学・疫学・IT の学際的分野である臨床研究データマネジメントの実際について触れることを目的とする。</p>		
授 業 の 方 法	初回に全体の総論、2回目以降に各論について、スライド、配布資料を用いて、講義及び質疑応答を行う。		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	日時	内容	担当
	11月21日(火) 13:00-14:45	I. CDISC 標準概論 CDISC 標準とは	木内貴弘/千葉吉輝 (株式会社 ChibaPlanningOffice)
	11月28日(火) 13:00-14:45	II. 臨床研究データマネジメント概論 臨床研究データマネジメントとは	岡田昌史
	12月5日(火) 13:00-14:45	III. データとメタデータ - Define.xml CDISC Define.xml	岡田昌史
	12月12日(火) 13:00-14:45	IV. Case Report Form の標準化 - CDASH CDISC Clinical Data Acquisition Standards Harmonization	岡田昌史
	12月19日(火) 13:00-14:45	V. データ形式の標準化 - SDTM CDISC Study Data Tabulation Model	岡田昌史
	12月26日(火) 13:00-14:45	VI. 解析データセットの標準化 - ADaM CDISC Analysis Data Model	大津洋 (国立国際医療研究センター)
	1月9日(火) 13:00-14:45	VII. CDSIC 標準による電子申請 日本における新薬承認申請の現状と展望	安藤友紀 (医薬品医療機器総合機構)
教科書・参考書等	教材として、スライドのハンドアウトを各回に配布する。また CDISC ホームページ (http://www.cdisc.org/) を必要に応じ、参照すること。		
成績評価の方法	出席(50%)及びレポート(50%)により総合的に評価する。		
他の授業との関連	医学データの統計解析、医学研究のデザイン、公共健康情報学、医療情報システム学、医療コミュニケーション学と関係を有し、共に受講することが望ましい。		

科目名	がん疫学(1) [科目番号：41718128]		
タ	A1	単	位
ム		数	1
曜日・授業時間帯	月曜 4 時限 (14:55-16:40)		
場	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
所			
担当教員	井上真奈美、他		
授業の目的	<p>「がんの疫学」について、専門家として必要な知識を体系的に習得する。集団レベルでのがんの予防をめざすには、その背景にあるがんの地理的分布や推移を把握した上で、予防に向けた要因の解明が必須である。具体的には、がん記述統計の必須基盤としてのがん登録手法、がんの要因を解明するための分析疫学研究、一つ一つの疫学的エビデンスを施策に結びつけるための橋渡し研究であるシステムティック・レビューやメタ・アナリシス、統合解析、エビデンスに基づくがん予防法やがん検診の考え方について、国内外の状況や事例も網羅して、系統的に学ぶ。最終回には、課題として各自が選定したがん疫学関連トピックについてまとめたものを短時間で発表する。</p>		
授業の方法	講義、発表		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 講義：がん疫学とは (概要、歴史)、がんの記述疫学 (地理的分布、推移) (9/25) 2) 講義：がん統計の手法：がん登録、死亡統計 (10/2) 3) 講義：がんの要因 (10/16) 4) 講義：がんの予防 (10/23) 5) 講義：がん検診 (10/30) 6) 講義：がん疫学研究 (研究から評価への流れと研究手法やその動向) (11/6) 7) 課題発表(11/13) 		
教科書・参考書等	指定なし。		
成績評価の方法	出席 (50%)、課題発表と発表資料の提出 (50%)		
他の授業との関連	疫学の基礎が理解できていること。		
備考欄			

科 目 名	精神保健学Ⅰ [科目番号：41718211]		
タ ー ム	S1+S2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火曜日・5限(16:50-18:35)		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	川上憲人、今村幸太郎、宮本有紀、金吉晴 (連携教授)、外部講師		
授 業 の 目 的	精神保健の疫学を理解し、効果的な第一次、第二次、第三次予防対策を立案することができるようになるために、精神保健疫学の基礎および精神保健対策の科学的根拠を学ぶと同時に、事例研究 (ケーススタディ) を通じて基礎的かつ実践的な能力を身につけることを目的とする。		
授 業 の 方 法	各回1つのテーマについて担当教員 (または外部講師) による講義と討議、質疑を行う。学生は各回の課題について事前に調べ持参する。課題発表1および2の回では、学生がグループでテーマに関して発表し、これに担当教員が補足を行い、全員で討論する。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4/11 1) オリエンテーション、総論 (川上) 4/18 2) 精神疾患の疫学 (川上) 4/25 3) 精神健康の評価 (川上) 5/2 4) 第一次予防と心理社会的支援 (宮本、今村) 5/9 5) 精神健康のスクリーニング (川上) 5/16 6) 精神保健のサービス利用 (川上) 5/23 7) 課題発表1 : 科学的根拠に基づく精神保健対策 6/6 8) トピックス① : 自殺予防対策はどう進める (外部講師) 6/13 9) トピックス② : 薬物使用は犯罪か病気か (外部講師) 6/20 10) トピックス③ : 精神保健行政の現状と課題 (外部講師) 7/4 11) トピックス④ : 災害時の精神保健 (金) 7/18 12, 13) 課題発表2 : 精神保健対策を立案する (5, 6限) ※ ※最終回のみ授業時間が 16:50-20:30 となるので注意すること。		
教科書・参考書等	教科書は指定しない。毎回、講義資料を配付する。		
成績評価の方法	出席 (30%)、毎回の事前学習 (10%)、課題発表2 (30%)、個人レポート (30%) により総合的に評価する。		
他の授業との関連	職場における精神保健対策について学ぶ「精神保健学Ⅱ」と関連する。		
備 考 欄	平成 28 年度に、毎回の事前学習は理解を深めるのに有用だが、準備の負担が大きいとの意見があった。平成 29 年度は事前学習の要求レベルを調整し準備に過度な負担がかからないように考慮する。		

科目名	精神保健学Ⅱ [科目番号：41718212]		
学期	A1 & A2	単位数	2
曜日・授業時間帯	火曜日・5限（16:50-18:35）		
場所	医学部・教育研究棟 13階 公共健康医学専攻講義室		
担当教員	川上憲人、非常勤講師		
授業の目的	職場のメンタルヘルスの専門職として必要とされる知識・技術を、講義および事例研究とその後の討論によって習得することを目的とする。具体的には、制度・法規、利用者の状態および特性を踏まえた対応、関連職種間の連携、近年の社会経済情勢を踏まえた対策について学び、具体的な対策を現場で進めることのできる能力を養成する。		
授業の方法	各回1テーマの講義あるいは事例研究（ケーススタディ） 担当教員（または非常勤講師）による講義と全員での討論。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	10/ 3 コース概要，産業精神保健総論 10/10 産業保健マネジメントの中でのメンタルヘルス対策 10/17 メンタル不調者対応の基本的な枠組み・専門職が留意すべきこと 10/24 外部 EAP によるメンタルヘルス支援 10/31 組織・個人の活性化とポジティブメンタルヘルス 11/ 7 職場のいじめとメンタルヘルス 11/14 経営と産業保健は協調できるか？ 11/21 腰痛とメンタルヘルス 11/28 ワーク・ライフ・バランスとメンタルヘルス 12/ 5 労働者の復職支援プログラム 12/12 中小規模事業所のメンタルヘルス対策 12/19 人事からみたメンタルヘルス対策 1/ 9 海外勤務者のメンタルヘルス支援 1/16 これからの職場のメンタルヘルス		
教科書・参考書等	毎回、講義資料を配付する。		
成績評価の方法	出席（30%）、レポート（70%）により総合的に評価する。		
他の授業との関連	精神保健疫学と対策の基礎について学ぶ「精神保健学Ⅰ」を受講していることが望ましい。		

科目名	健康教育学 [科目番号：41718213]		
タ ャ ム	A2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金(Fri)1 [08:30-10:15],金(Fri)2 [10:25-12:10]		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	橋本 英樹		
授 業 の 目 的	生活習慣・健康行動変容に関する理論を講義でまず鳥瞰した後、各理論のフレームを用いて実践的プログラム立案を行う上での長所・短所・限界点をクラス内ディスカッション・レポートで深める。		
授 業 の 方 法	講義、グループディスカッション、ケースメソッドなどを組み合わせる。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	11/24 1)1 限 Micro-meso level of behavioral theories (橋本) 11/24 2)2 限 Population level of behavioral theories (橋本) 12/1 3)1 限 Micro-meso level theories applied (橋本) 12/1 4)2 限 Macro level theories applied (橋本) 12/8 5)1 限 Empowerment approach in community I (岩永) 12/8 6)2 限 Empowerment approach in community II (岩永) 12/15 7)1 限 Health marketing in workplace I (戸津崎) 12/15 8)2 限 Health marketing in workplace II (戸津崎) 1/12 9)1 限 Health literacy and ethics of behavioral modification (橋本) 1/12 10)2 限 Public intervention for community health (馬場) 1/19 11)1 限 wrap-up discussion		
教科書・参考書等	Glanz K, et al. Health Behavior and Health Education: Theory, Research and Practice. 4th eds. John Willey and Sons, 2008 畑 栄一, 土井 由利子. 行動科学—健康づくりのための理論と応用. 南江堂 第 2 版 :他、適宜配布 handouts and reading materials will be distributed beforehand.		
成績評価の方法	出席ならびに講義中発言(40%)・課題およびレポート(60%)		
他の授業との関連			
備 考 欄	積極的発言・参加を高く評価する.講義中以外(休み時間)の質問は原則受け付けない		

科 目 名	健康社会学	[科目番号：41718214]
タ ー ム	A 1	単 位 数 2
曜日・授業時間帯	金(Fri)1 [08:30-10:15],金(Fri)2 [10:25-12:10]	
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室	
担 当 教 員	橋本 英樹	
授 業 の 目 的	<p>社会学を基本軸として、健康を社会的文脈で考察する知的基盤を提供する。具体的には社会学理論を鳥瞰したうえで、健康科学との接点として医療・医師・社会的健康決定要因などを題材として取り扱う。</p> <p>Will provide sociological theory basis to consider health in social context rather than in bio-medical frame.</p>	
授 業 の 方 法	講義と in-class discussion	
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<p>9/29 1) 1 限 Perspective of sociology and health sociology (橋本)</p> <p>9/29 2) 2 限 Medicine as social systems/power politics (橋本)</p> <p>10/6 3) 1 限 Social stratification and health (橋本)</p> <p>10/6 4) 2 限 Social relationship and health (杉澤)</p> <p>10/13 5) 1 限 medicalization and gaze (橋本)</p> <p>10/13 6) 2 限 sociology of community applied to health (高木)</p> <p>10/20 7) 1 限 complementary/alternative healthcare (中山)</p> <p>10/20 8) 2 限 Sociology of school health (朝倉)</p> <p>10/27 公衆衛生学会のため休講</p> <p>11/10 9) 1 限 Lay epidemiology, illness behavior (橋本)</p> <p>11/10 12) 2 限 sociology of health promotion (橋本)</p> <p>11/17 13) 1 限 world of medicine and chronic illness (橋本)</p>	
教科書・参考書等	<p>Lupton D. Medicine as culture; illness, disease, and the body. 2nd eds. SAGE, 2003</p> <p>他、適宜配布</p> <p>handouts and reading materials will be distributed beforehand</p>	
成績評価の方法	出席ならびに講義中発言(40%)・課題およびレポート(60%)	
他の授業との関連		
備 考 欄	積極的発言・参加を高く評価する。講義時間以外(休み時間)の質問は原則受け付けない	

科 目 名	医療倫理学 I [科目番号：41718218]		
タ ー ム	S1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木曜・5～6 時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	赤林 朗・瀧本 禎之		
授 業 の 目 的	公衆衛生領域の政策決定や臨床現場における倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方を教える。医療倫理学総論、インフォームド・コンセント、研究倫理などを取り上げ、全体講義と少人数討論（ディベート）を行う。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。		
授 業 の 方 法	各回、最初に全体講義を行い、当該テーマに関する必要知識を教授する。さらに、当該知識を実践に活用するための訓練として、少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>初回は 2016 年 4 月 6 日</p> <p>(1) 生命・医療倫理学とは / 倫理学の基礎 1</p> <p>(2) 倫理学の基礎 2 / 医療倫理の原則と重要概念</p> <p>(3) IC の法理 / 終末期医療</p> <p>(4) 臨床症例の倫理的検討法</p> <p>(5) ケアの倫理 / 生殖補助医療</p> <p>(6) 守秘義務 / 研究倫理</p> <p>(7) 模擬倫理委員会</p>		
教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤林朗（編著）『入門・医療倫理 I』 勁草書房 ・ Jonsen, A.R. et al. 著（赤林、蔵田、児玉監訳）『第 5 版臨床倫理学—臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』 新興医学出版 ・ 赤林朗編著 『ケースブック 医療倫理』 医学書院 ・ Hope, T. 著（児玉聡・赤林朗訳）『一冊で分かる医療倫理』 岩波書店 		
成績評価の方法	平常点（30%）、及び最終レポート点数（70%）により評価する。		
他の授業との関連	「医療倫理学 II」受講の基礎となる内容である。		

科 目 名	医療倫理学 II [科目番号：41718219]		
タ ー ム	S2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木曜・5～6 時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	赤林 朗・瀧本 禎之		
授 業 の 目 的	公衆衛生倫理と臨床倫理コンサルテーションの 2 つの領域に関して実践的な知識を涵養するために、全体講義と少人数討論 (ディベート) を行う。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。		
授 業 の 方 法	各回、最初に全体講義を行い、当該テーマに関する必要知識を教授する。さらに、当該知識を実践に活用するための訓練として、少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>初回は 2016 年 6 月 8 日</p> <p>(1) 公衆衛生倫理入門</p> <p>(2) 公衆衛生・政治哲学</p> <p>(3) 健康格差と正義 I / 医療における意思決定</p> <p>(4) 健康格差と正義 II / 倫理コンサルテーション I</p> <p>(5) 資源配分 / 倫理コンサルテーション II</p> <p>(6) 新型インフルエンザ / 倫理コンサルテーション III</p> <p>(7) 研究者の倫理と不正 / 倫理コンサルテーション IV</p>		
教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤林朗(編著)『入門・医療倫理 I』勁草書房 ・ Jonsen, A.R. et al. 著 (赤林、蔵田、児玉監訳)『第 5 版臨床倫理学—臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』新興医学出版 ・ 赤林朗編著 『ケースブック 医療倫理』 医学書院 ・ Hope, T. 著 (児玉聡・赤林朗訳)『一冊で分かる医療倫理』岩波書店 		
成績評価の方法	平常点 (30%)、及び最終レポート点数 (70%) により評価する。		
他の授業との関連	医療倫理学 I の内容を前提とする。		

科目名	社会と健康 I [科目番号：41718220]		
学期	A1	単位数	2
曜日・授業時間帯	木曜 1～2 時限		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	近藤尚己・橋本英樹・川上憲人・外部講師：児玉聡・本庄かおり・藤原武男		
授業の目的	<p>貧困や社会関係、差別など、健康に影響を与える社会的な要因 (Social Determinants of Health: SDH) についての理論と最近の知見を学ぶ。社会疫学でよく用いられる計量分析技術のうち公衆衛生全般に広く応用可能なものも紹介する。</p>		
授業の方法	講義・事前配布資料・レポート		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 社会疫学概論 (近藤) 9/28 1 限 2) 個人と社会の関係 (橋本) 9/28 2 限 3) 社会経済状況 (近藤) 10/5 1 限 4) 景気動向・所得格差 (近藤) 10/5 2 限 5) 社会関係 (近藤) 10/12 1 限 6) ソーシャル・キャピタル (近藤) 10/12 2 限 7) 胎児期からの社会環境：ライフコース疫学 (藤原) 10/19 1 限 8) 差別・職業(川上) 11/9 1 限 9) ジェンダー格差 (本庄) 10/19 2 限 10) 健康の平等と倫理(児玉)11/9 2 限 11) 社会疫学の因果推論 (近藤) 11/16 1 限 12) レビューセッション(近藤)11/16 2 限 <p>講師の都合により日時変更の可能性あり。</p>		
教科書・参考書等	<p>テキスト：川上憲人ほか「社会と健康：健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ」東大出版会</p> <p>参考書：「予防医学のストラテジー」ジェフリー・ローズ／「ソーシャル・キャピタルと健康」イチロー・カワチほか／「保健医療従事者のためのマルチレベル分析活用ナビ」藤野ほか</p>		
成績評価の方法	出席態度(40%)・レポート(60%)		
他の授業との関連	健康科学・看護学専攻「健康社会学特論 I」および公共政策大学院「社会と健康 I」との共通開講科目。		
備考欄			

科目名	社会と健康 II [科目番号: 41718221]		
学期	A 2	単位数	2
曜日・授業時間帯	金曜 3～4 時限		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	近藤尚己・高木大資 外部講師: 石川善樹・藤野善久		
授業の目的	社会環境にアプローチするヘルスプロモーションと健康格差対策の理論と実践について事例とともに実践的に学ぶ。毎回グループディスカッションの時間を十分にとり、意見を出し合い考えることを重視する。最終日は受講者自らが調べた内容の発表を行う。		
授業の方法	講義・レポート・課題発表・討論		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>1・2) 健康格差対策の国際動向と基本概念 11/24 3・4 限 3・4) 連携とガバナンス/行動科学の応用 12/1 3・4 限 5) 健康格差指標とそのモニタリング 12/8 3 限 6) 健康格差対策にむけた合意形成手段 12/8 4 限 7・8) 健康影響評価(HIA)演習 (藤野) 12/15 3・4 限 9) ヘルスコミュニケーションによる健康格差対策 (石川) 1/12 3 限 10) 都市環境と健康・犯罪 (高木) 1/12 4 限 11・12) 課題発表 1/19 3 限・4 限</p> <p>講師の都合により日程を変更する可能性がある。</p>		
教科書・参考書等	近藤尚己「健康格差対策の進め方: 効果をもたらす5つの視点」(医学書院) 健康格差指標都モニタリング演習では、米国 National Cancer Institute の研究用フリーソフト Health Disparity Calculator (HD*Calc) を使用する。		
成績評価の方法	出席と態度(30%)・レポート(40%)・課題発表 (30%)		
他の授業との関連	「社会と健康 I」に出席することが望ましい。健康教育学・健康社会学・医療コミュニケーション学などに関連する。公共政策大学院との合同開講。		
備考欄	アンケート結果を受け、公表であったグループディスカッションの時間をさらに増やし活発に意見交換できるようにした。		

科 目 名	産業保健の理論と実践 [科目番号：41718222]		
タ ー ム	A1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	水曜日・9時30分～10時15分および10時25分～12時10分		
場 所	医学部教育研究棟13階 公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担 当 教 員	川上 憲人（精神保健学分野） 大久保靖司（環境安全本部）		
授 業 の 目 的	<p>産業保健について最近の動向と国際的視点についてのアップデートな情報を講義すると同時に、演習を通じて産業保健を職場で遂行するための理論的背景の理解及び実践的技術の基礎を習得することを目的とする。</p> <p>特に、演習では、産業保健の計画と評価、事例分析、職場巡視及び参加型職場改善手法と取り上げており実践的な技術を習得することができる。また、課題を提示し、課題に対する企画立案を行う Project based learning を行い、その結果のプレゼンテーションまでを行うことでプロジェクト遂行のために必要な技術を修得する。</p> <p>本科目においては、産業保健の基礎的な学習を修了していない者も第1回の産業保健関連法制度・産業保健総論を受講することで必要な基礎知識を修得することができる。</p>		
授 業 の 方 法	担当教員および外部講師によるその時点におけるトピックスに関する講義 事例検討等による実践的学習 Project Based Learning による演習		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	9/27 第1回 産業保健関連法制度・産業保健総論（大久保靖司） 第2回 産業保健の動向と国際的広がり（小木和孝） 10/4 第3回 産業保健と雇用（矢野栄二 帝京大学） 第4回 産業保健のマネジメント（森晃爾 産業医科大学） 10/11 第5回 化学物質とリスク管理（甲田茂樹 労働安全衛生総合研究所） 第6回 産業保健と倫理（杉森裕樹 大東文化大学） 10/18 第7回 産業保健と経済（武藤孝司 獨協医科大学） 第8回 産業保健と健康リスク管理（立道昌幸 東海大学） 10/25 第9回 演習：産業保健の計画と評価（坂本宣明、ヘルスデザイン株式会社） 第10回 演習：職場巡視（大久保靖司） 11/1 第11回 演習：産業保健の事例分析Ⅰ（大久保靖司） 第12回 演習：産業保健の事例分析Ⅱ（大久保靖司） 11/8 第13回 演習：参加型職場環境改善Ⅰ（吉川徹 労働安全衛生総合研究所） 第14回 演習：参加型職場環境改善Ⅱ（吉川徹 労働安全衛生総合研究所） 11/15 第15回 演習：課題発表Ⅰ（川上憲人、大久保靖司） 第16回 演習：課題発表Ⅱ（川上憲人、大久保靖司）		
教科書・参考書等	特に指定しない		
成績評価の方法	出席(33%)、課題発表及びレポート(66%)		
他の授業との関連	衛生学、公衆衛生学、精神保健学Ⅱ、健康危機管理学、医療安全管理学、環境健康医学と関連する。		

科 目 名	保健医療人材育成学 [科目番号：41718223]		
タ ー ム	S1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火曜 1・2 時限		
場 所	医学部総合中央館（医学図書館）3F M1 室		
担 当 教 員	大西弘高，孫大輔（医学教育国際研究センター）		
授 業 の 目 的	保健医療分野における人材育成とは、地域や国における保健・医療のニーズに対し、医療人材育成やその制度の開発によって、改善するプロセスである。この科目では、学習や教育に関する理論、カリキュラム開発、プログラム評価、インストラクショナル・デザインの考えを理解しつつ、自らコースや授業を組み立て、評価できるような能力を培うことを目的とする。		
授 業 の 方 法	毎回アクティブラーニングを含めた授業を展開する。プロジェクト発表は、①学生が他の学生の前でプレゼンテーション、②プロジェクト発表について振り返った後、レポートを提出、の両方を評価する。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4月11日 医療人材育成とは、ワークショップとワールドカフェ 4月18日 インストラクショナル・デザイン、講義技法 4月25日 プロジェクト発表1 5月2日 カリキュラム開発：カリキュラムとは、ニーズ評価、教育・学習目標 5月9日 カリキュラム開発：方略、実施、評価 5月16日 医療人材育成の最新トピックス：professionalism、IPE、地域基盤型 5月23日 プロジェクト発表2		
教科書・参考書等	特にないが、Kernら「医学教育プログラム開発」、Hardenら「医学教育を学び始める人のために」、は参考になる。		
成績評価の方法	最終評価：出席（20%），プロジェクト発表（40%），振り返りレポート（40%）		
他の授業との関連			

科 目 名	学習者評価学 [科目番号：41718224]		
タ ー ム	A1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火曜 1・2 時限		
場 所	医学部総合中央館（医学図書館）3F M1 室		
担 当 教 員	大西弘高（医学教育国際研究センター）		
授 業 の 目 的	<p>学習者評価は、人材育成、教育、研修などを行った後に、学習が想定したように行われたかを確認するために行う教育的に非常に重要な活動の一つである。学習者評価の手法は近年ますます多様化し、適切な方法を選択し、組み合わせることは簡単でなくなってきた。この授業では、学習者評価に関して様々な側面から最新の理論を提示すると共に、そのデータをプログラム評価や研究に用いることも想定し、適切な評価手法の組み合わせ方、データの信頼性・妥当性といった側面に関して論じることができるレベルを目指す。</p>		
授 業 の 方 法	<p>毎回テーマに応じた講義とグループディスカッション、一部コンピュータ上で行うデータ解析の作業。グループ発表など。</p>		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<p>9月26日 ①教育介入の評価と研究、②評価・評定と心理測定 10月3日 ①学習目標と評価手法の関係、②筆記試験と CBT 10月10日 ①学習者評価の妥当性（よい学習者評価とは）、②合否判定基準設定 10月17日 ①実技試験（OSCE）、②信頼性と一般化可能性理論 10月24日 ①業務基盤型評価（ポートフォリオ）、②実施可能性と評価管理 10月31日 ①専門医試験制度、②プログラム評価の方法 11月7日 プロジェクト発表（各自領域を選び、総括評価システムを策定）</p>		
教科書・参考書等	毎回、関連した論文などを用いる。		
成績評価の方法	最終評価：出席（30%）、プロジェクト発表（35%）、振り返りレポート（35%）		
他の授業との関連	保健医療人材育成学を履修していることが望ましいが必須ではない。		

科目名	Health Care and Community Health in Japan [科目番号：41718225]		
タ	S2	単	1単位/1 credit
曜日・授業時間帯	月曜4時限/Monday, 4th period (14:55-16:40)		
場	医学部教育研究棟13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室/ SPH Lecture room		
担当教員	公共健康医学専攻長/Head, School of Public Health		
授業の目的	<p>英語により日本の保健医療制度およびサービスについて概説し、日本の保健医療制度をグローバルな視点から学ぶ機会を提供すると同時に、学生の保健医療制度に関する国際的なコミュニケーション能力を向上させる。</p> <p>This class will provide an overview of health care system and services in Japan, to provide opportunities of viewing health care system and services in Japan from a global perspective and to promote the ability of students on international communication on the topics of health care system and service.</p>		
授業の方法	<p>原則として、授業時間の半分を講義、半分は学生による討議と質疑とする。各回とも最後にレポート課題を提示する。</p> <p>Each class consists of lecture and question/discussion, with a presentation of a report subject.</p>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>June 5 #1. Introduction to health care system in Japan (Prof Kobayashi)</p> <p>June 12 #2. Where do we stand in maternal and child health services? - Lessons from the past and current challenges - (Assoc. Prof Takahashi, Part-time lecturer)</p> <p>June 19 #3. Mental health and disability (Prof Kawakami, Dr Baba)</p> <p>June 26 #4. Elderly care (Prof. Hashimoto)</p> <p>July 3 #5. Occupational health (Prof Kawakami)</p> <p>July 10 #6. Health-related big data in Japan (Prof Yasunaga)</p> <p>July 24 #7. Social disparity in health (Assoc. Prof Kondo)</p>		
教科書・参考書等	The Lancet – Japan: Universal Health Care at 50 Years: www.thelancet.com/series/japan		
成績評価の方法	出席(50%) およびレポート(50%) Class attendance (50%), and Report (50%)		
他の授業との関連	N/A		
備考欄	<p>レポートは、各教員から示されたもののうち2つのテーマを選び、MSワードあるいはPDF形式で、8月1日までに電子メールで提出すること。</p> <p>A student report on two topics selected from those indicated by a faculty member in charge of each class should be prepared in a MS Word or PDF format and submitted via e-mail by August 1.</p> <p>質問があれば以下のメールアドレスまで問い合わせること/any question should be addressed to: kawakami@m.u-tokyo.ac.jp</p>		

科 目 名	健康医療政策学 [科目番号：41718311]		
タ ー ム	A1・A2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	月曜5時限		
場 所	医学部・教育研究棟13階 公共健康医学専攻講義室		
担 当 教 員	小林廉毅、豊川智之 東 尚弘 (国立がん研究センターがん対策情報センター) 馬場園 明 (九州大学医療経営・管理学)		
授 業 の 目 的	疾病予防対策、医療保険制度、医療提供体制、医療評価など、種々の健康・医療に関わる制度・政策の背景並びに立案・実施、報道、社会への影響について、様々なステークホルダーの立場、関連の法令、費用負担のあり方などを学習するとともに、実際の事例を通じて理解を深める。		
授 業 の 方 法	講義、ゲストスピーカーによる報告、質疑応答・討論などによる。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	①9/25 健康医療政策とはなにかーイントロダクション (小林) ②10/2 政策のプロセス (小林) ③10/16 地域医療構想における大規模データの活用 (ゲストスピーカー) (小林) ④10/23 医療の質の評価の考え方 (東) ⑤10/30 科学的根拠に基づく政策立案は可能なのか (東) ⑥11/6 医療制度の国際比較 (小林) ⑦11/13 医療行政の現場 (仮題) (厚生労働省担当者) (小林) ⑧11/20 (4時限 14:55-16:40) 特別講義 (馬場園講師) ⑨11/20 (5時限 16:50-18:35) // (//) ⑩11/27 わが国の喫煙対策をめぐる議論 (ゲストスピーカー) (小林) ⑪12/4 医療へのアクセスと医療政策 (豊川) ⑫12/11 日本における医療政策決定過程ーメディアからの視点 (ゲストスピーカー) (豊川) ⑬12/18 政策課題プレゼンテーション (学生) ⑭12/25 (予備日)		
教科書・参考書等	「国民衛生の動向」(厚生統計協会)		
成績評価の方法	出席(約50%)、授業でのプレゼンテーション・ミニレポート(約50%)に基づいて評価する。		
他の授業との関連	「予防保健の実践と評価」「保健医療経済学」と関連する。		

科 目 名	医療情報システム学 [科目番号：41718312]		
タ ー ム	S1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金曜・3～4時限(最終回のみ水5～6時限) (詳細日程は初回に説明)		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	教授：大江 和彦 他		
授 業 の 目 的	現在の医療が抱える課題を IT による解決していくにはどうしたらよいかについて理解し、臨床的なエビデンスや医療変革のための知見を得るための基盤情報システムとしての電子カルテやレセプトなどの医療情報データベースの意義と課題を理解する。また医療情報がどのように医療サービスシステムの中で管理・活用されるべきかについて議論する。こうしたことを通じて現在の医療システムの変革につなげる方策と制度との関連性を学ぶ。また医療データを扱う上で避けて通れないデータのコーディングと標準化の重要性、暗号化を含むセキュリティー技術についても理解する。		
授 業 の 方 法	医療サービスやそれに関わる医療 IT 政策、地域医療におけるフィールド実証実験に関するテーマを順にとりあげ、それぞれにおいて医療情報システム、データベース、情報通信技術 (IT)、法令や制度がどのように関わり、課題と関連しているかについて講義し、議論する。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>4月7日(初回)に全体の授業計画を説明する。全体は13コマ(途中で実施する小試験、最終回の議論、試験を含む)からなる。各回のテーマを入れ替えることがあり、下記のテーマ順序はおおよその例示である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 4月7日 2コマ 医療情報化政策と関連する情報技術基盤、制度の概要 2) 4月14日 2コマ 電子カルテシステム、医療情報の標準化 3) 4月21日 2コマ 医療パーソナルデータの安全管理と情報ネットワーク技術 4) 4月28日 2コマ 医療情報データベース—レセプト NDB と MID-NET DB 5) 5月12日 2コマ モバイル IT 医療、生活習慣病マネジメントと IT 6) 5月19日 2コマ 人工知能技術と医療データベース 7) 5月26日(予備日) 8) 5月31日(水) 5限 1コマ 試験とディスカッション <p>※6/2(金) は開講しない</p>		
教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療情報 情報処理技術編 (篠原出版新社) ・ 医療情報 医療情報システム編 (篠原出版新社) ・ 内閣官房高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部 (IT総合戦略本部) HP 		
成績評価の方法	出席率 30%、討論 20%、レポート (含試験) 点数 50%の比重で総合的に判定する。		
他の授業との関連	<p>保健医療経済学：医療経済学的観点で医療情報システムを理解する上で関連性を有する。</p> <p>公共健康情報学：健康をとりまく種々の公共情動的側面を知るうえで、関連性が強く、同時に受講することが望ましい。</p> <p>臨床疫学：医療情報システムから収集される大規模データの解析の実例や手法を学ぶ上で関連が深い。</p>		

科 目 名	医療情報システム学実習 [科目番号：41718313]		
タ ー ム	S2	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	木曜日・1～2時限（詳細日程は初回到説明）		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担 当 教 員	教授：大江 和彦 他		
授 業 の 目 的	医療情報システム学教室で開発し研究者に提供している多目的臨床症例登録システム MCDRS（マックドクターズ）使って研究管理者として疾患登録システムを稼働させ、臨床症例を登録する実習を通して、データベースの考え方、電子カルテシステムとのデータ連携の手法、医療情報の標準化、クラウド上と医療機関上のネットワークの違い、データベース変換など医療情報システムを臨床や研究で活用していく基本的な技法と実践的知識を身につける。またファイルの暗号化等々の技術的な仕組み、仮想化システムの仕組みを体験する。		
授 業 の 方 法	医療情報システム学教室で開発し研究者に提供している多目的臨床症例登録システム MCDRS（マックドクターズ）使って研究管理者として疾患登録システムを稼働させ、臨床症例を登録する実習を行う。 （プログラミング技術を身につける実習はしない。）		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	初回 2017年6月8日（木）計7日13コマ 【★1限冒頭の遅刻厳禁。コンピュータを使った実習方法を毎回歩調を全員で合わせて説明するため一人が遅刻するとあとでその人のために教員リソースを割く必要が生じ、他の皆が迷惑します。】 特定の疾患に各自がフォーカスを絞り、多目的臨床症例登録システム MCDRS を使って My 症例データベースを作ることによって種々の医療情報技術を習得する。 1) 対象疾患の決定と登録すべき項目の決定 2) 登録項目シートの作成 3) Web 版多施設症例登録システムを自分でインターネット上に稼働させる。 4) 試験的な患者登録を行う。 5) 中間発表会 6) 集中的な相互症例登録実験 7) システムの改良点などディスカッション 最終回は7月20日の予定。		
教科書・参考書等	パソコンは各自所有のノート PC の使用を原則とするが、所有していない場合には当方で用意し実習期間中は貸与する。各自のノート PC で実習する関係で事前に希望者は申し出て PC 機種情報を申告する。実習パソコンでは Web ブラウザとエクセルが使える必要がある。各自にそれ以上のパソコンスキル、プログラミングスキルは不要である。多目的臨床症例登録システム MCDRS のホームページ資料(Http://mcdrs.jp)		
成績評価の方法	出席状況（30%）、発表会や質疑等（40%）、出来上がりデータベース（30%）を総合的に評価する。		
他の授業との関連	医療情報システム学講義を受講しているほうが実習を理解しやすい。		
備 考	学生アンケート結果を反映し、2016年度からプログラミング実習をとりやめた。		

科 目 名	法医学・医事法学	[科目番号：41718316]	
タ ー ム	S1・S2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	月曜 3限		
場 所	医学部教育研究棟 13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	岩瀬博太郎、榎野陽介、他		
授 業 の 目 的	法医学の学問的目的を理解する。法医学における各分野（法病理学、法遺伝学、法中毒学、法歯科学、法画像診断学、臨床法医学）で実施される業務に関して、その目的と内容を理解する。		
授 業 の 方 法	座学をメインとするが、PBL 形式の授業も考慮する。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1. 法医学とは (4月10日) 2. 日本の死因究明制度 (4月17日) 3. 世界の死因究明制度 (4月24日) 4. 医師と政治の関わり (5月1日) 5. 虐待と乳幼児の死亡 (5月8日) 6. 法画像診断学 (5月15日) 7. 法中毒学 1 (総論) (5月22日) 8. 法中毒学 2 (各論) (5月29日) 9. 法遺伝学 (6月5日) 10. 法歯科学 (6月12日) 11. 災害と法医学 (6月19日) 12. 診療関連死 (6月26日) ※ テーマは変更することがある		
教科書・参考書等	エッセンシャル法医学		
成績評価の方法	出席 (40 点) レポート (60 点)		
他の授業との関連			

科目名	医療安全管理学 [科目番号：41718318]		
タ ャ ム	S1	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	水曜日、3・4時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	安樂真樹、児玉安司		
授 業 の 目 的	医療安全管理とは①有害事象の未然防止、②発生した有害事象への適切な対応、③患者からの苦情相談への対応のための取り組みである。本講義では、これらに関連する重要な問題について基礎知識を習得することを目的として、講義を行う。		
授 業 の 方 法	・様々なテーマ（先端医療における医療安全の取り組み、病院組織における医療安全管理活動、専門性の相互理解と共有、安全を支える医工融合の研究開発、事故調査委員会と報告書のあり方、ヒヤリ・ハット事例の収集・分析と無過失補償による紛争の解決について等）に沿って、1回1テーマを基本として講義を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>開講日：4月19日、5月10日、5月17日、5月24日</p> <p><u>(1) 医療安全に必要な視座 (児玉安司先生)</u> 医療安全対策と医療事故紛争対応の15年の歩みを振り返り、今後の医療安全の方向性を議論する。これまでの品質管理、経営管理、政策制度構築の手法の限界と専門家と市民の対話、意思決定への参加など、大きな構造の変化を迎える中での医療の質・安全実現のための政策制度構築を検討する。</p> <p><u>(2) 先端医療の安全管理とインフォームドコンセント (安樂真樹)</u> 先端医療は医療の発展には必要な領域である。安全を確保しながら、医療の新しい領域を切り開いていく際の、安全管理と当事者、医療関係者、社会への説明の在り方を考える。</p> <p><u>(3) 専門性の相互理解と共有(荒井有美先生)</u> 大学病院の医療安全管理者の取り組み、特に薬剤関連の対策を中心に、立場や専門性の違う専門職が協働し、チームとして医療安全を確保するための方法を学ぶ。</p> <p><u>(4) 病院組織における安全管理 (相馬孝博先生)</u> 医療機関の医療安全活動の全体像とマネジメント方法を学ぶ。特に、個人とシステム、対話(コミュニケーションとチームワーク)、患者参加(患者との対話)という3つの新しい観点に着目する。</p> <p><u>(5) 医療の質安全を支える未来志向手術室と医工融合による研究開発 (正宗賢先生)</u> 医師とエンジニアが融合したチームが開発した、手術室の医療機器をネットワークでつないだ「スマート治療室」の他、医療ニーズから始まる研究、技術シーズの研究など新しいコンセプトに基づく研究について学ぶ。また医工融合環境に関するレギュレトリーサイエンスの現状を知る。</p> <p><u>(6) 医療事故調査制度、ヒヤリ・ハット事例の収集・分析と無過失補償による紛争の解決について (後信先生)</u> 医療事故情報収集等事業と産科医療無過失補償制度の成り立ちと事業内容、これらの制度の現場での状況を学ぶ。医療安全のために収集した情報を活用するための工夫点、今後の様々な制度の展望を現場の視点を交えて学ぶ。</p> <p><u>(7) 事故調査委員会と報告書のあり方 (宮田哲郎先生)</u> 「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」の経験を踏まえ、医療事故の調査を行う医療事故調査・支援センターの在り方とその調査結果を記す報告書の在り方について、よりよい医療を目指す上で有用なもの(医療行為の専門的な評価を行い、再発防止に役立つもの)となるようにという観点から、その議論と経緯を学ぶ。</p> <p><u>(8) 試験</u></p>		
参考書	<p>1. 「患者安全」 Charles Vincent (著), 相馬孝博・藤澤由和 (翻訳) (篠原出版新社)</p> <p>2. 「ヘルスケアリスクマネジメント」 中島和江・児玉安司 (医学書院)</p> <p>3. 「医療安全ことはじめ」 中島和江・児玉安司 (医学書院)</p>		
成績評価の方法	成績は筆記試験及び平常点により評価する。(出席10%、試験90%)		
他の授業との関連	本講義に関連して、医療安全管理学実習を実施する。		

科 目 名	医療安全管理学実習 [科目番号：41718319]		
タ ー ム	A 1	単 位 数	0.5
曜日・授業時間帯	集中、1～6時限（9月20日(水)及び9月21日(木)）		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻（SPH）講義室等		
担 当 教 員	安樂真樹 児玉安司		
授 業 の 目 的	医療安全管理とは①有害事象の未然防止、②発生した有害事象への適切な対応、③患者からの苦情相談への対応のための取り組みである。本実習では、各種の医療機関で多様な医療安全対策と患者苦情対応の体制が整備されつつあることを認識し、医療安全管理活動に関する今後のあり方について考察することを目的とする。		
授 業 の 方 法	医療機関での聞き取り調査および観察実習とそれに基づく今後のあり方についての考察を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>2日間で下記プログラムの実習を行うものとする。</p> <p>1. <u>医療に関する苦情相談の内容分析と医療事故調査制度</u></p> <p>①患者からの医療に関する苦情相談の検討を行い、政策課題の発見や患者住民啓発や医療機関への効果的なフィードバックについて検討する</p> <p>②医療事故調査について理解し、当事者、組織内、社会との情報共有の課題について検討する</p> <p>2. <u>医療機関での調査・実習</u></p> <p>複数の医療機関の見学とディスカッション</p> <p>①医療安全対策部門の概況・活動の見学</p> <p>②患者相談・臨床倫理部門の概況・活動の見学</p> <p>③他の医療機関の医療安全対策についての報告会</p>		
教科書・参考書等	<p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全ことはじめ 中島和江・児玉安司（医学書院） ・院内事故調査実践マニュアル 法令準拠 中島 勸（医歯薬出版株式会社） ・その他、講義の際に、必要に応じて、紹介する。 		
成績評価の方法	成績は、出席状況及び実習報告書の内容で評価する。（出席 30%、報告書 70%）		
他の授業との関連	別に実施する医療安全管理学（講義）を履修することが望ましい。ただし、必要条件ではない。		

科 目 名	健康危機管理学 [科目番号：41718320]		
タ ー ム	S1	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	月曜・1～2時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	小林廉毅 富尾 淳 (医学系研究科社会医学専攻公衆衛生学講師) 岡部信彦 (川崎市衛生研究所長) 中島一敏 (大東文化大学) 田中良明 (埼玉県幸手保健所所長)		
授 業 の 目 的	新興・再興感染症等のアウトブレイクや大規模災害など様々な健康危機の事例、健康危機突発事の原因同定と対応策、リスクコミュニケーション、平時におけるサーベイランスについて学習するとともに、事例を用いて健康危機管理に必要な疫学調査法の基本を習得する。		
授 業 の 方 法	講義及び過去の典型的な事例を用いた事例研究 (ケーススタディ) による。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4/17 (月) 健康危機管理概論、新興・再興感染症 (岡部講師) 公衆衛生サーベイランス (小林) 4/24 (月) (2 時限) 災害医療とリスクコミュニケーション (富尾講師) 5/ 8 (月) アウトブレイクへの対応(1) (事例検討) (中島講師、富尾講師) " (2) (") (中島講師、富尾講師) 5/15 (月) アウトブレイクへの対応 (中島講師) 保健行政における健康危機管理 (田中講師)		
教科書・参考書等	「最新感染症ガイド R-Book 2012」(日本小児医事出版社、2013 年)		
成績評価の方法	出席 (約 60%) 及びレポート (約 40%) に基づいて評価する。		
他の授業との関連	「保健行政・健康危機管理学実習」と関連する。		

科 目 名	保健行政・健康危機管理学実習 [科目番号：41718321]		
タ ー ム	夏季休業期間	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	集中（今年度は9/4（月）～9/15（金）を予定している）		
場 所	保健所（埼玉県幸手保健所を予定している）、研究室等		
担 当 教 員	小林廉毅 田中良明（埼玉県幸手保健所所長）		
授 業 の 目 的	健康危機管理や保健行政一般に関して、各種資料の収集、各種疫学指標の算出、原因に関する仮説の構築、現実的な対応策の立案及びその実施と評価、対策実施に関わる組織・態勢のマネジメントなどについて実習する。 （本実習の対象者は将来、公衆衛生行政に進むことを希望しており、実習先の指定する資格を取得している者に限定する。また、受け入れ施設の都合により履修人数を制限することがある。）		
授 業 の 方 法	保健行政・健康危機管理の現場に身をおき、保健所長などの各種専門職の役割を理解しながら、実習を行う。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	実習先（保健所等）における実習計画に基づいて行う。		
教科書・参考書等	「衛生行政大要 改訂第24版」（日本公衆衛生協会、2016年）		
成績評価の方法	出席(50%)、実習態度(40%)、実習報告書(10%)を目安に評価するが、いずれも必須である（合否で判定）。		
他の授業との関連	「健康危機管理学」の履修を必須とする。		

科 目 名	環境健康医学 [科目番号：41718322]		
タ ー ム	A1	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	月曜・2限		
場 所	医学部教育研究棟 13階 公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担 当 教 員	大迫 誠一郎		
授 業 の 目 的	ヒトは、大気、水、食品などの環境から様々な有害な化学物質を体内に取り込んでいる。他方、事故により、中毒量を取り込む場合もある。様々な有害物質による健康影響に関する歴史から背景、今日的な問題についての講義を行う。また、健康影響の同定、量反応関係、有害影響が現れる分子病態メカニズムを中心に、その影響を初期に診断するためのバイオマーカー、環境防御対策などについても基本的な知識と考え方を各専門分野のエキスパートを迎えオムニバス形式で講義する。		
授 業 の 方 法	担当教員等による講義で、全7回の予定。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>第1回 9月25日 ダイオキシンの健康リスク評価 大迫誠一郎（ガイダンス込み）</p> <p>第2回 10月2日 大気汚染の健康影響、特に気管支喘息について 嵯峨井 勝 先生（つくば健康生活研究所）</p> <p>第3回 10月16日 環境化学物質のケミカルバイオロジー 熊谷 嘉人 先生（筑波大学・環境医学）</p> <p>第4回 10月23日 身近な化学物質の子どもへの影響～発達期曝露の遅発中枢影響～ 種村 健太郎 先生（東北大学・農学研究科）</p> <p>第5回 10月30日 珪酸・アスベストの免疫影響 大槻 剛巳 先生（川崎医科大学・衛生学）</p> <p>第6回 11月6日 ゲノム情報の予防医学への応用 ～環境中化学物質への感受性の個人差～ 加藤 貴彦 先生（熊本大学・環境生命科学）</p> <p>第7回 11月13日 環境毒性学とエピジェネティクス 大迫誠一郎</p>		
教科書・参考書等	適宜、指定する。		
成績評価の方法	すべての出席とレポート提出を前提として、出席 50%、レポート 50%で評価する。		
他の授業との関連			
備 考 欄			

科目名	公共健康情報学 [科目番号:41518323]		
学期	S2	単位数	2
曜日・授業時間帯	6月9日—7月28日金曜 3限目と4限目		
場所	医学部教育研究棟 13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	小山博史及び非常勤講師予定 (若尾文彦先生、吉田輝彦先生、布施明先生、中山健夫先生、山口直人先生)		
授業の目的	公共健康医学分野におけるデータサイエンスの基礎について理解すること。		
授業の方法	各回1テーマの講義を行う。 テーマによって資料を配布し、Active learning も取り入れた講義を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>【対象】 医療分野のデータサイエンスについて学習したい人。 (特にプログラミング能力を有する必要はありません。)</p> <p>【内容】 医療分野におけるデータサイエンスに関連する講義を行う。</p> <p>【概要】 (非常勤講師の都合で一部日程及び題目・内容の一部変更の可能性あり) (Active Learning の際にはインターネット検索性 PC を要持参)</p>		
		13時00分～14時45分	14時55分～16時40分
	6月9日	医療におけるデータサイエンス (データマイニング概論:Rの利活用)	米国の予防接種登録システムにおける意思決定支援
	6月16日	がん対策情報センターとがん政策(仮) (若尾文彦先生)	情報関連法と情報倫理
	6月23日	がんにおける遺伝子診断の現状と課題 (仮)(吉田輝彦先生)	総合討論 (Active Learning)
	6月30日	災害医療における情報処理(仮) (布施明先生)	医療におけるデータサイエンス (GIS:地理情報システム)
	7月7日	患者中心の医療のための健康情報処理の現状と課題(仮)(中山健夫先生)	総合討論 (Active Learning)
	7月14日	診療ガイドラインの現状と課題(仮) (山口直人先生)	知識ベースの社会的役割
	7月21日	総合討論 (Active Learning)	(記述試験予定)
	7月28日	(予備日)	
教科書・参考書等	1) Magnuson, J.A., Fu, Jr., Paul C. (Eds.) Public Health Informatics and Information Systems 2nd ed. 2014, Springer. ISBN 978-1-4471-4236-2. 2) 講義用作成資料		
成績評価の方法	出席(約 50%)、小テスト・総合討論(約 30%)、期末試験(約 20%)により評価する。		
他の授業との関連	医療情報システム学や医療コミュニケーション学と関連性が深く共に受講することが望ましい。		

科 目 名	公共健康情報学実習 [科目番号:41518324]		
学 期	A1	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	開講期間:9月25日～11月17日(金曜日3-4限目)		
場 所	医学部教育研究棟 13階 公共健康医学専攻(SPH)講義室予定		
担 当 教 員	小山博史		
授 業 の 目 的	医療における空間疫学の基本的手法の習得。		
授 業 の 方 法	空間疫学に関する基本的なデータ処理法を修得するため、実習の手引を元に PC を用いた実習を行う。(基本的には R を使用) (PC は学生所有の PC 持参。)		
授業計画及び 内容(各回のテーマ)	<p>【対象】空間疫学における基本的なデータ処理を習得したい人。 【内容】 R を用いた代表的なデータマイニング手法と地理空間分析入門 担当教官の都合により一部日程及び内容の変更の可能性あり 前半で処理と解析方法について説明を行った後、課題に対して数人のペアで解析を行い発表する形式(Active learning)を行う予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 空間疫学と空間データの基本操作 2. 地域間の比較 3. 空間データの可視化 4. 空間的自己相関 5. 疾患地図 6. 空間集積性 7. 空間点過程 8. モデル 		
教科書・参考書等	実習の手引きを中心に空間疫学における基本的なデータ処理技術を学習し、小グループに分かれて課題に対してデータ解析を行い、成果を発表する Active Learning 形式を基本として行う。R のダウンロードサイト(http://www.r-project.org/)		
成績評価の方法	出席(約50%)と小テスト(約30%), 課題レポート(約20%)により評価する。		
他の授業との関連	医療情報システム学、医療コミュニケーション学と関係が深く、共に受講することが望ましい。		

科 目 名	科学技術コミュニケーション -市民的合意形成のために- [科目番号：41718325]		
タ ー ム	A1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金曜 5・6 時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	孫大輔 (医学教育国際研究センター) 江間有沙 (教養学部科学技術インタープリター養成部門)		
授 業 の 目 的	<p>近年、科学技術と社会の関係を問い直す動きが活発化し、我が国では 2001 年の「第 2 期科学技術基本計画」において「科学技術と社会の間の双方向のコミュニケーションのための条件を整えることが不可欠」とされている。世界的には 1990 年代の BSE (牛海綿状脳症) をめぐる問題などをきっかけに、科学技術コミュニケーションの重要性が認識されることとなった。保健医療従事者にとっても、生命科学に関する技術や健康に関するエビエンスに関する、市民や異分野のステークホルダーとのコミュニケーションが求められている。</p> <p>この科目では、健康・医療に焦点を当てた科学技術コミュニケーションや健康リスク・コミュニケーションの理論と方法について学び、特に医療・公衆衛生分野における諸テーマに関して、保健医療専門家として市民および異分野の人々との効果的なコミュニケーションを実践する能力を養うことを目的とする。具体的には、担当教員らが実践しているヘルスコミュニケーションやゲーミングツールを用いたコミュニケーションの理論と方法を実際に体験しながら学ぶ。</p>		
授 業 の 方 法	毎回テーマに応じた講義とグループディスカッション、グループ発表などを行う。最後には、受講者自身が健康に関する諸テーマをもとにワークショップを企画し、一部実践を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	(1) 9/29 科学技術コミュニケーション総論、ヘルスコミュニケーション (2) 10/6 リスク・コミュニケーション、ゲーミングと科学コミュニケーション (3) 10/13 ファシリテーション、科学コミュニケーションの実践例 (ゲスト講師) (4) 10/20 対話のいろいろな型、ファシリテーション実践 (5) 10/27 学生によるプレゼンテーション (6) 11/10 模擬ワークショップ準備 (7) 11/17 模擬ワークショップ実践		
教科書・参考書等	・藤垣裕子, 廣野喜幸: 科学コミュニケーション論, 東京大学出版会, 2008 ・廣野喜幸: サイエンティフィック・リテラシー -科学技術リスクを考える, 丸善出版, 2013 ・吉川肇子: 健康リスク・コミュニケーションの手引き, ナカニシヤ出版, 2009		
成績評価の方法	最終評価: 出席(50%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(20%)を総合して評価		
他の授業との関連	「医療コミュニケーション学」「医療コミュニケーション学演習」の内容は関連があるが、本科目では市民および異分野ステークホルダーを含めたヘルスコミュニケーションに焦点を当てる。		

科 目 名	インターンシップ [科目番号：41718411]		
タ ー ム	夏季休業期間または春季休業期間	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	8～9月中の2～3週間（募集6月中旬）または3月中の2～3週間（募集2月上旬）		
場 所	公衆衛生関連の試験研究機関・シンクタンク・NGO、企業の臨床試験担当部門、医療機関の情報担当部門など（下記受入先一覧参照）		
担 当 教 員	川上 憲人（専攻長）		
授 業 の 目 的	公衆衛生の現場（公衆衛生関連の試験研究機関・シンクタンク・非営利団体等、医療機関）などに身を置いて、実務の中から、自ら取り組むべき課題を見つけ、分析を行い、対策を立案する能力を身に付ける。		
授 業 の 方 法	学生が自らの関心に応じて、あらかじめ用意されたインターンシップ受入先（下記参照）を担当教員に提示した後、担当教員がコーディネーターとなり、学生の意欲や適性と受入先の状況に応じて受入先と調整を行い、派遣先を決定後、実施する。*募集期間6月中旬および2月上旬		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	インターンシップ実施にあたって、あらかじめ、学生、責任教員及び受け入れ先と綿密に打ち合わせの上、実習計画を立て、それに基づいて実習を行う。		
	○受入先一覧		
	N o	インターンシップ受入先及びテーマ（予定）	
	1	独立行政法人 国立健康・栄養研究所 栄養疫学に関するデータ収集および分析の援助	
	2	NPO メンタルケア協議会 ① 東京都自殺相談ダイヤル相談記録に基づく相談者傾向の分析等 ② 東京都精神科救急医療情報センター相談記録に基づく救急医療利用の傾向変化についての分析等 ③ 自殺未遂者対応連携支援事業における G・P 連携の効果評価	
	3	独立行政法人 国立がん研究センター がん対策情報センターがん情報・統計部 ① 臨床研究現場の見学：臨床試験・研究の立案プロセス等を知り、医療機関で働く生物統計家や臨床試験・研究に関する専門家の役割を学ぶ ② 臨床試験データの解析演習	
	4	NPO 日本臨床研究支援ユニット 乳癌検診・大腸癌検診・循環器領域などの大規模臨床試験に関連した研究管理とデータ管理の援助	
	5	国立保健医療科学院 医療技術や医薬品等の費用対効果の評価と活用	
	6	特定非営利活動法人 ヘルスサービスR&Dセンター 救急医療管制支援システム（e-MATCH）設計・開発・導入等の支援業務	
	7	株式会社 三菱総合研究所（夏季のみ） 保健、医療、介護に関わるプロジェクト分析やコンサルティング業務など	
8	株式会社キャンサーキャン 市町村の保健行政（がん検診の受診率向上等）、理想的な職場環境づくり等に対する		

	<p>コンサルティングプロジェクトを通じて、担当者を説得するコミュニケーション、ビジネスとしてプロジェクトを動かすスキーム等を体験し学ぶ</p> <p>上記以外の機関については、専攻長まで希望を書面で提出し、専攻会議で承認を受けることでインターンシップを行うことができる。</p>
教科書・参考書等	特に指定しない。
成績評価の方法	出席（30%）、実習態度（30%）、インターンシップ報告書（40%）に基づいて評価する。
他の授業との関連	

科 目 名	公共健康医学専攻特論 [科目番号：41718412]		
タ ー ム	S1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	月曜4・5限 (14時55分-18時35分)		
場 所	医学部教育研究棟13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	公共健康医学専攻 担当教員 (調整幹事 健康医療政策学分野)		
授 業 の 目 的	公共健康医学専攻の13分野から、それぞれ公共政策・活動との接点となる具体的取り組み事例や課題をテーマとして取り上げ、公共の厚生に資する健康科学のあり方と、その研究・実践上の克服すべき課題について、理解を深める。		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・13分野の教員と外部講師によって、公共の観点に則したテーマを選んで講義を行う ・テーマごとに資料が配布される 		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>1) 4/10 14:55-16:40 公共健康医学の視座 (康永)</p> <p>2) 4/10 16:50-18:35 法医学 (岩瀬)</p> <p>3) 4/17 14:55-16:40 パブリックメンタルヘルス:公衆衛生としての精神保健 (川上)</p> <p>4) 4/17 16:50-18:35 保健医療政策の立案と実現 (厚生労働省 迫井)</p> <p>5) 4/24 14:55-16:40 公共健康情報学概論 (小山)</p> <p>6) 4/24 16:50-18:35 産科医療補償制度 (小林)</p> <p>7) 5/8 14:55-16:40 ヘルスリテラシーとヘルスコミュニケーション (石川)</p> <p>8) 5/8 16:50-18:35 医療倫理学概論 (赤林)</p> <p>9) 5/15 14:55-16:40 環境と中毒:歴史からの教訓と健康科学の役割 (大迫)</p> <p>10) 5/15 16:50-18:35 景気動向と健康 (近藤)</p> <p>11) 5/22 14:55-16:40 公衆栄養学・予防栄養学の役割と課題 (佐々木)</p> <p>12) 5/22 16:50-18:35 健康医療情報の二次利用をとりまく諸問題 (大江)</p> <p>13) 5/29 14:55-16:40 健康の社会的決定要因:医療モデルの批判的克服 (橋本)</p> <p>14) 5/29 16:50-18:35 臨床試験成績の解釈と公共への発信 (松山)</p> <p>(※講義の順番・内容は変更することがある)</p>		
教科書・参考書等	講義毎に異なるので適宜指示する。		
成績評価の方法	各回の出席 (50%)・レポート (50%) を総合的に評価して判定する。		
他の授業との関連	他の授業のすべてと関連を有する。		

科目名	課題研究 [科目番号：41718511]		
タ　　ー　　ム	通年	単　　位　　数	6
曜日・授業時間帯	指導教員の指定する曜日・時間帯		
場　　所	指導教員の指定する研究室		
担　当　教　員	各指導教員		
授　業　の　目　的	公衆衛生学の諸領域における高度な問題解決能力を身に付ける。		
授　業　の　方　法	特定の研究課題について、現地調査（フィールドワーク）。資料収集、分析・統計解析、論文作成などを指導教員の指導のもとで行う。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	—		
教科書・参考書等			
成績評価の方法	出席状況（50%）及び課題研究の成果（課題研究論文）（50%）で評価する。		
他の授業との関連			

6. 公共健康医学専攻成績評価規則

公共健康医学専攻成績評価規則

制定 平19. 4. 1

改正 平26. 7. 23

(成績の区分)

第1条 学生の成績は、A+, A, B, C, Fの5段階とし、C以上を合格とする。ただし、特別の理由があるときは合格・不合格の2段階評価とすることができる。

(成績区分の標準)

第2条 A+, A, B, C, Fの基準は、下記の通りとする。

A+ 90点以上

A 80点以上

B 70点以上

C 60点以上

F 不合格(60点未満)

(成績評価)

第3条 成績は、筆記試験及び平常点によって評価する。ただし、実習科目並びに相当の理由がある演習科目、受講生の少ない科目等では、レポート等の提出によって筆記試験に代えることができる。

2 各教員は、成績評価に際してどのような要素がどの程度考慮されるかにつき、学生が履修する前に公表しておくものとする。

3 教員による採点は、原則として素点によって行う。ただし、学生には素点ではなく、5段階評価で通知する。

(成績に関する説明)

第4条 学生は、自己の成績について、成績の通知を受けてから1ヶ月以内に限り所定の方式に従い、教員に対して説明を求めることができる。

(筆記試験の実施)

第5条 筆記試験実施の細目は、別に定める。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

7. 公共政策大学院との合併科目について

	科目番号	科目名 (担当)	単位	ターム	曜日	時限	開講場所
P. 55	41718326	社会保障法政策 (島崎)	2	A1・A2	月	6	法文1号館 Law 26



科 目 名	社会保障法政策 Social Security Law Policy [科目番号：41718326]		
タ ー ム	A1A2 (2017/09/21-2018/01/26)	単 位 数	2.0
曜日・授業時間帯	月(Mon)6 [18:45-20:30]		
場 所	法文1号館 Law 26		
担 当 教 員	島崎 謙治		
授 業 の 目 的	<p>社会保障をめぐる法政策は、高齢化・少子化の進展、経済成長の低迷、経済活動の国際化など、社会経済の大きな変化を背景に、非常にダイナミックな動きを見せている。しかも、社会保障制度は、国民の生活に直結し、かつ国の経済活動にも影響を与えるために、現代行政の中でも大きな位置を占めるに至っている。 この授業は、現代行政において重要性を増しつつある社会保障について、実際に政策立案に携わった経験も踏まえ、法政策とは何かという点にポイントを置き、基本的に講義形式で行う。 具体的には、総論として、法政策とは何か、人口問題と社会保障、社会保障の国際比較、について講義した後、各論として、医療を中心に取り上げる。また、年金および社会福祉についても講義する。</p>		
授 業 の 方 法	講義方式による。		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 少子高齢化・経済成長と社会保障（人口構造・経済構造と社会保障） 2. 社会保障・法・政策（社会保障と法・制度・政策の意味） 3. 日本の社会保障制度の沿革（日本の社会保障の歴史と現状） 4. 日本の社会保障の体系と特質（社会保障の国際比較、社会保険方式の意義） 5. 医療保険制度1（医療保険制度の概説と政策課題） 6. 医療保険制度2（医療保険制度体系論） 7. 医療供給制度1（医療供給制度の基本問題と政策課題） 8. 医療供給制度2（医療供給制度の政策手法。診療報酬制度等） 9. 介護保険制度（介護保険制度の概説と政策課題） 10. 生活保護および福祉制度（生活保護および福祉制度の概説と政策課題） 11. 年金制度1（公的年金制度の概説と政策課題） 12. 年金制度2（前回の補足および企業年金制度の概説と政策課題） 13. 社会手当（児童手当・児童扶養手当の概説と政策課題） 14. 社会保障と税制（社会保障・税の一体改革等） 15. 総括（全体のまとめ） 		
教科書・参考書等	授業の中で指定する。		
成績評価の方法	レポートによる。		
他の授業との関連			
備 考 欄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初回にあらゆる政策の基礎となる人口問題の解説を行う。この回だけでも聴講することを薦める。 ・ （関連ホームページ）http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/courses/index.htm 		

8. 国際保健学専攻との合併科目について

	科目番号	科目名 (担当)	単位	ターム	曜日	時限	開講場所
P. 57	41718328	国際保健政策学特論 I (渋谷)	2	S1・A1	火	3, 4	医学部 3 号館 5 階 N507 セミナー室
P. 58	41718329	国際保健政策学特論 II (渋谷)	2	A2・W	火	3, 4	医学部 3 号館 5 階 N507 セミナー室

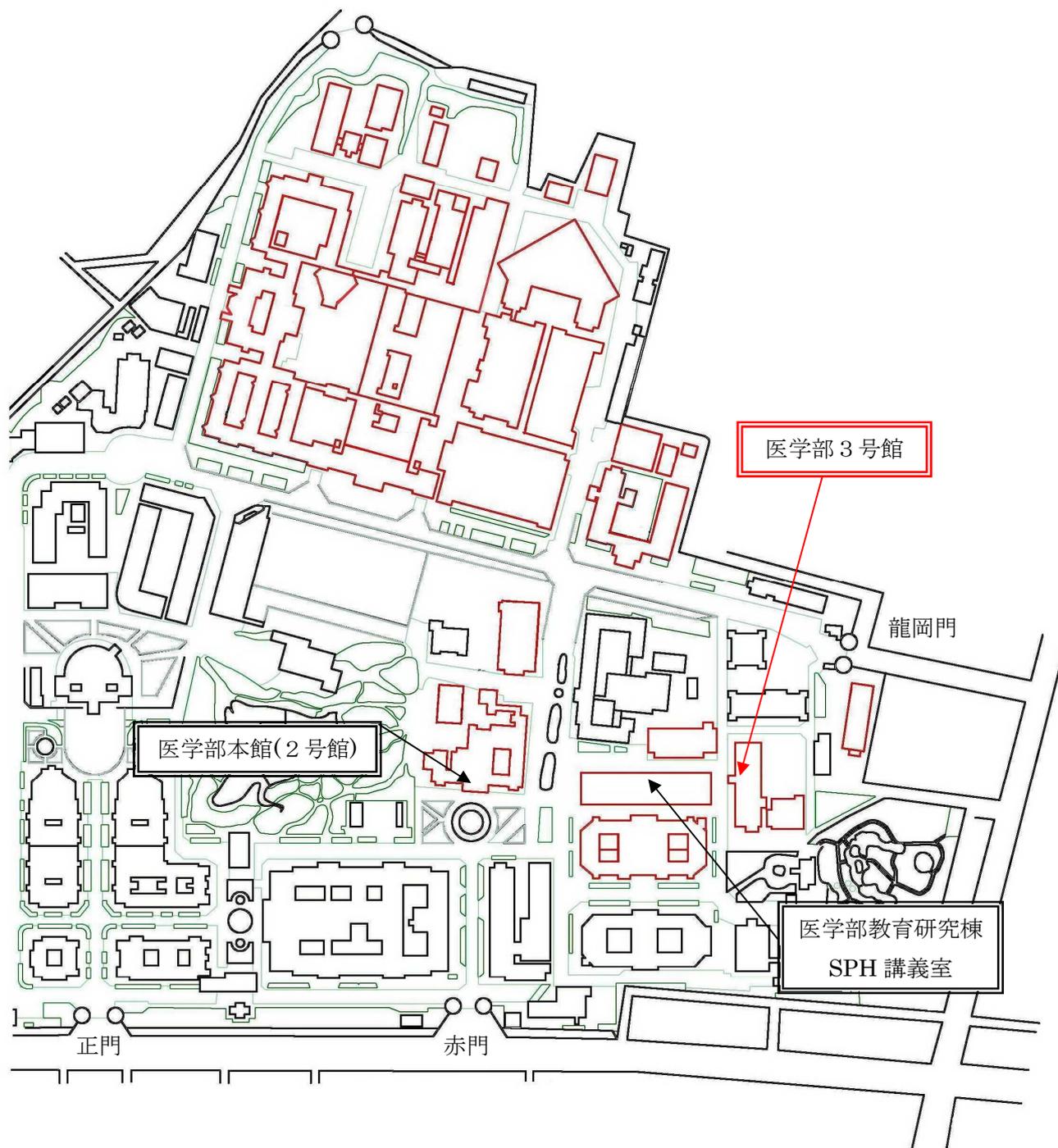


科目番号	41718328	授業科目名	国際保健政策学特論 I																																
タ ー ム	S1&A1	曜 日	火	時 限	3,4																														
担 当 教 員	渋谷 健司 (教授)																																		
講 義 室	医学部 3 号館 5 階 N507 セミナー室																																		
授業開始日	4 月 18 日																																		
授業の目的	本特論は、グローバルヘルスにおける主な課題と論点の理解と理論的背景を概説するとともに、政策課題の分析と解釈のための実践的演習を行う。グローバルヘルスの第一線で活躍する外部講師による特別講義も適宜実施し、理論と実践の双方を習得する。扱うテーマは、グローバルヘルスの政策とガバナンス、イノベーション、保健関連ミレニアム開発目標（母体、新生児、小児の疾病、HIV/エイズ、結核やマラリア）、疾患サーベイランス等である。																																		
授業の方法	受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。																																		
授 業 日 程	<p>4 月 18 日から 6 月 6 日 (1-7) および 9 月 26 日から 11 月 7 日 (8-14) まで。</p> <p>講義スケジュール (予定)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Lecture</th> <th>Topic</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Innovations in global health (1)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Global health policy: overview</td> </tr> <tr> <td>3 (Special lecture)</td> <td>Innovations in global health (2)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Global Health governance</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Maternal and newborn health</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Recent trends in development assistance</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Child survival</td> </tr> <tr> <td>8 (Special lecture)</td> <td>Development in Africa and its leadership</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Malaria</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Tuberculosis</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>HIV/AIDS</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Social determinants of health</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Pandemic influenza and IHR</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Final Exam</td> </tr> </tbody> </table>					Lecture	Topic	1	Innovations in global health (1)	2	Global health policy: overview	3 (Special lecture)	Innovations in global health (2)	4	Global Health governance	5	Maternal and newborn health	6	Recent trends in development assistance	7	Child survival	8 (Special lecture)	Development in Africa and its leadership	9	Malaria	10	Tuberculosis	11	HIV/AIDS	12	Social determinants of health	13	Pandemic influenza and IHR	14	Final Exam
Lecture	Topic																																		
1	Innovations in global health (1)																																		
2	Global health policy: overview																																		
3 (Special lecture)	Innovations in global health (2)																																		
4	Global Health governance																																		
5	Maternal and newborn health																																		
6	Recent trends in development assistance																																		
7	Child survival																																		
8 (Special lecture)	Development in Africa and its leadership																																		
9	Malaria																																		
10	Tuberculosis																																		
11	HIV/AIDS																																		
12	Social determinants of health																																		
13	Pandemic influenza and IHR																																		
14	Final Exam																																		
教科書及び参考書	課題図書(毎週 6 から 10 の英語文献)は各講義の 1 週間前に配布する。																																		
成績評価	宿題(30%)、授業への参加(20%)、筆記試験(50%)																																		
そ の 他	特別講義や講義資料は国際保健政策学教室の HP を参照のこと。																																		

科目番号	41718329	授業科目名	国際保健政策学特論Ⅱ																												
タ ー ム	A2&W	曜 日	火	時 限	3,4																										
担 当 教 員	渋谷 健司 (教授)																														
講 義 室	医学部 3 号館 5 階 N507 セミナー室																														
授業開始日	11 月 21 日																														
授業の目的	<p>本特論は、グローバルヘルスにおける主な課題と論点の理解と理論的背景を概説するとともに、政策課題の分析と解釈のための実践的演習を行う。グローバルヘルスの第一線で活躍する外部講師による特別講義も適宜実施し、理論と実践の双方を習得する。扱うテーマは、保健医療制度と皆保険（UHC）、疾病負担（GBD）、リスク因子分析、慢性疾患（NCDs）、保健財政、保健サービス、保健制度パフォーマンス分析、保健と外交政策等である。</p>																														
授業の方法	<p>受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。</p>																														
授 業 日 程	<p>11 月 21 日から 1 月 23 日 (1-8) および 1 月 30 日から 2 月 20 日 (9-12) まで。</p> <p>講義スケジュール (予定)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Lecture</th> <th>Topic</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Global health diplomacy</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Quantifying health outcomes</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Non-communicable diseases (1): Cancers and CVDs</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Non-communicable diseases (2): Mental illness and injuries</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Comparative risk assessment</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Major risk factors: Tobacco and alcohol</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Health system performance assessment</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Health service quality</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Monitoring and evaluation</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Financing health systems (1)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Financing health systems (2)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Final Exam</td> </tr> </tbody> </table>					Lecture	Topic	1	Global health diplomacy	2	Quantifying health outcomes	3	Non-communicable diseases (1): Cancers and CVDs	4	Non-communicable diseases (2): Mental illness and injuries	5	Comparative risk assessment	6	Major risk factors: Tobacco and alcohol	7	Health system performance assessment	8	Health service quality	9	Monitoring and evaluation	10	Financing health systems (1)	11	Financing health systems (2)	12	Final Exam
Lecture	Topic																														
1	Global health diplomacy																														
2	Quantifying health outcomes																														
3	Non-communicable diseases (1): Cancers and CVDs																														
4	Non-communicable diseases (2): Mental illness and injuries																														
5	Comparative risk assessment																														
6	Major risk factors: Tobacco and alcohol																														
7	Health system performance assessment																														
8	Health service quality																														
9	Monitoring and evaluation																														
10	Financing health systems (1)																														
11	Financing health systems (2)																														
12	Final Exam																														
教科書及び参考書	課題図書(毎週 6 から 10 の英語文献)は各講義の 1 週間前に配布する。																														
成績評価	宿題(30%)、授業への参加(20%)、筆記試験(50%)																														
そ の 他	特別講義や講義資料は国際保健政策学教室の HP を参照のこと。																														

8. 国際保健学専攻との合併科目について

	科目番号	科目名 (担当)	単位	ターム	曜日	時限	開講場所
P. 57	41718328	国際保健政策学特論 I (渋谷)	2	S1・A1	火	3, 4	医学部 3 号館 5 階 N507 セミナー室
P. 58	41718329	国際保健政策学特論 II (渋谷)	2	A2・W	火	3, 4	医学部 3 号館 5 階 N507 セミナー室



科目番号	41718328	授業科目名	国際保健政策学特論 I																																
タ ー ム	S1&A1	曜 日	火	時 限	3,4																														
担 当 教 員	渋谷 健司 (教授)																																		
講 義 室	医学部 3 号館 5 階 N507 セミナー室																																		
授業開始日	4 月 18 日																																		
授業の目的	本特論は、グローバルヘルスにおける主な課題と論点の理解と理論的背景を概説するとともに、政策課題の分析と解釈のための実践的演習を行う。グローバルヘルスの第一線で活躍する外部講師による特別講義も適宜実施し、理論と実践の双方を習得する。扱うテーマは、グローバルヘルスの政策とガバナンス、イノベーション、保健関連ミレニアム開発目標（母体、新生児、小児の疾病、HIV/エイズ、結核やマラリア）、疾患サーベイランス等である。																																		
授業の方法	受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。																																		
授 業 日 程	<p>4 月 18 日から 6 月 6 日 (1-7) および 9 月 26 日から 11 月 7 日 (8-14) まで。</p> <p>講義スケジュール (予定)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Lecture</th> <th>Topic</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Innovations in global health (1)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Global health policy: overview</td> </tr> <tr> <td>3 (Special lecture)</td> <td>Innovations in global health (2)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Global Health governance</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Maternal and newborn health</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Recent trends in development assistance</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Child survival</td> </tr> <tr> <td>8 (Special lecture)</td> <td>Development in Africa and its leadership</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Malaria</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Tuberculosis</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>HIV/AIDS</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Social determinants of health</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Pandemic influenza and IHR</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Final Exam</td> </tr> </tbody> </table>					Lecture	Topic	1	Innovations in global health (1)	2	Global health policy: overview	3 (Special lecture)	Innovations in global health (2)	4	Global Health governance	5	Maternal and newborn health	6	Recent trends in development assistance	7	Child survival	8 (Special lecture)	Development in Africa and its leadership	9	Malaria	10	Tuberculosis	11	HIV/AIDS	12	Social determinants of health	13	Pandemic influenza and IHR	14	Final Exam
Lecture	Topic																																		
1	Innovations in global health (1)																																		
2	Global health policy: overview																																		
3 (Special lecture)	Innovations in global health (2)																																		
4	Global Health governance																																		
5	Maternal and newborn health																																		
6	Recent trends in development assistance																																		
7	Child survival																																		
8 (Special lecture)	Development in Africa and its leadership																																		
9	Malaria																																		
10	Tuberculosis																																		
11	HIV/AIDS																																		
12	Social determinants of health																																		
13	Pandemic influenza and IHR																																		
14	Final Exam																																		
教科書及び参考書	課題図書(毎週 6 から 10 の英語文献)は各講義の 1 週間前に配布する。																																		
成績評価	宿題(30%)、授業への参加(20%)、筆記試験(50%)																																		
そ の 他	特別講義や講義資料は国際保健政策学教室の HP を参照のこと。																																		

科目番号	41718329	授業科目名	国際保健政策学特論Ⅱ																												
タ ー ム	A2&W	曜 日	火	時 限	3,4																										
担 当 教 員	渋谷 健司 (教授)																														
講 義 室	医学部 3 号館 5 階 N507 セミナー室																														
授業開始日	11 月 21 日																														
授業の目的	本特論は、グローバルヘルスにおける主な課題と論点の理解と理論的背景を概説するとともに、政策課題の分析と解釈のための実践的演習を行う。グローバルヘルスの第一線で活躍する外部講師による特別講義も適宜実施し、理論と実践の双方を習得する。扱うテーマは、保健医療制度と皆保険 (UHC)、疾病負担 (GBD)、リスク因子分析、慢性疾患 (NCDs)、保健財政、保健サービス、保健制度パフォーマンス分析、保健と外交政策等である。																														
授業の方法	受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。																														
授 業 日 程	<p>11 月 21 日から 1 月 23 日 (1-8) および 1 月 30 日から 2 月 20 日 (9-12) まで。</p> <p>講義スケジュール (予定)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Lecture</th> <th>Topic</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Global health diplomacy</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Quantifying health outcomes</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Non-communicable diseases (1): Cancers and CVDs</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Non-communicable diseases (2): Mental illness and injuries</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Comparative risk assessment</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Major risk factors: Tobacco and alcohol</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Health system performance assessment</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Health service quality</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Monitoring and evaluation</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Financing health systems (1)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Financing health systems (2)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Final Exam</td> </tr> </tbody> </table>					Lecture	Topic	1	Global health diplomacy	2	Quantifying health outcomes	3	Non-communicable diseases (1): Cancers and CVDs	4	Non-communicable diseases (2): Mental illness and injuries	5	Comparative risk assessment	6	Major risk factors: Tobacco and alcohol	7	Health system performance assessment	8	Health service quality	9	Monitoring and evaluation	10	Financing health systems (1)	11	Financing health systems (2)	12	Final Exam
Lecture	Topic																														
1	Global health diplomacy																														
2	Quantifying health outcomes																														
3	Non-communicable diseases (1): Cancers and CVDs																														
4	Non-communicable diseases (2): Mental illness and injuries																														
5	Comparative risk assessment																														
6	Major risk factors: Tobacco and alcohol																														
7	Health system performance assessment																														
8	Health service quality																														
9	Monitoring and evaluation																														
10	Financing health systems (1)																														
11	Financing health systems (2)																														
12	Final Exam																														
教科書及び参考書	課題図書(毎週 6 から 10 の英語文献)は各講義の 1 週間前に配布する。																														
成績評価	宿題(30%)、授業への参加(20%)、筆記試験(50%)																														
そ の 他	特別講義や講義資料は国際保健政策学教室の HP を参照のこと。																														